

■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図 (A) B C D

1点提出  
 2点提出

学生番号 4201 氏名 柳沼系少英子

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
小父の肖像

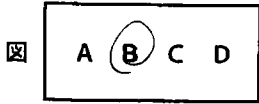
この絵は、一見すると何か描いてあるのかあからずい。私はこの絵を今初めて目にしたので、タイトルから推測することもできない。私は、この絵から次のような思いを感じた。それは、作者はこの物を描こうと思っ、この絵を描いたのていあるということである。どうも意味がといてこの絵を見ると真ん中にある物の他には、あまり余白なく描かれているものがないということである。背景も、特に精密に描かれているわけではなく水色一色だし、真ん中の物の他に何か描かれているわけでもない。よって、作者は「この物を描こうと思っ、この絵を描いたのだ」と私は考えた。では、この描かれているものは一体何なのか。2つ目を感じた思いは、これは何か(もしくは誰か)の肖像画かもしれない、ということである。なぜそう思ったのかといふ私が今まで見てきた肖像画ではもちろん例外もあるが、人物の胸までが画面にはりて描かれ、背景は一色でぬらぬらしているものが多かった。この絵は、まさにそのように感じるのである。描かれているものが本当に人間かどうかはあからずいがないが、白く描かれた部分が私には人間のよう感じた。

上記のタイトルは、この絵を見て私が勝手に想像して書いたものであるが、なぜ私がこの絵を「小父の肖像」と感じたのかといふと、まず最初に上げられる理由が、中心の少し上のあたりに描かれた一本の黒い線と、それにつながる4本の少し太い線である。この部分だけ見ると、まるで植物の枝のように感じる。私はこの部分を男学生の口ひげのように思えた。さらに、その部分を口ひげととらえると、その口の部分から出ているものはまるでパイプの煙のように見える。以上の点から、この絵はパイプを吸っている成人男性の肖像のように見えるのである。

私は正直に言うとあまりこの絵に魅力を感じない。何か目的があるのかは、さっぱりあからずいからである。しかし、この絵のフリーハンドで描かれたような線やタッチには、ゆるやかな落ちつきを感じる。とても目立つという感じのものではないが「美術館に1枚ありそうなお絵だ」と思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名

4201 柳沼 紉菜子

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

タイトル

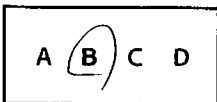
夏の日の午後

私はこの絵を見てまず最初に季節感を感じた。夏の、特に初夏の6月、7月頃くらいの季節である。なぜそう考えたのかと、まず客観的な事実として上げられるのが、通り一面に広がる青々とした草原である。この草原からは、さあかな夏のあどろけさが感じられると共に、7月下旬から8月にかけての夏の熱苦しさというものはあまり感じられない。次に上げられるのが、画面に描かれている女性(と思われる)の服装である。この女性は半そでのワンピースのよ、なものを身に付けており、顔や表情はわからないが、帽子などはかかっている。絵も全体的にあまりキラキラしていないところから、さあまた日差しは強くかきさらせている。また、この女性のワンピースは真白であり、そのあたりからもうあどろけさが感じられる。一方、絵全体から感じられるさあかなとは反対に、どこかさびしげな、さびしげな感情を感じる。どう感じるのかわからないが、私は、特にもの悲しさを感じさせるのは女性のポーズと、画面内での女性の大きさである。この女性は、真白な腰を下ろした姿勢から、ふり反、て遠くにある家を見つめているように見える。ただそれだけのポーズなのか、私にはそれか何者かに置いていかれた人のように見えた。追いかけるように、左手が少しのびされ、体全体が家の方向を向いているその姿に、追いかけたいけれど届かないという悲しさを感じた。また、全体的に草原が大きく写し出されているこの画面で、女性は比較的小さめに描かれている。このことから、まるで今にも草原に飲み込まれてしまいそうな心細さ不安感を感じた。そして、私がこの絵に抱いた大きな疑問は「光」についてである。この季節感を見るに、もと「太陽光」のようなものが感じられても、いいような気がするが、この絵は必要最低限の影かきさる程度の光しか描かれておらず、「光」として描かれていないように感じた。このことから、この絵はただの美しい風景画、という物ではなく、光の感じられない、暗い部分も含めた感情も入りまじっているように思えた。以上のことから、この絵からは117.23に人物と風景が描かれているといえどもかかかろ、どうにかという感情のよ、なものを強く感じる作品だと思った。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図



1点提出

2点提出

学生番号 4202 氏名 浅井 董

浅井 董

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

遠い過去

この作品は、左下の主人公らしき女性の感情が重点に置かれた作品だと思います。この女性をじっと見た時、彼女の悲しみという感情や何かを壊しにしているような感情が伝わってきました。右上にある建物が彼女の家の家で、彼女と彼女の間に置かれた克星の線引きは、彼女が既に居場所を追われて、その場には帰ることはできない状況にあることを表していると考えました。そして、彼女の視線や体制、手の位置などから、彼女はその家に帰りたいたいと思っていることが読みとれます。風にながく横髪の動きは諦めようとしても諦めきれない感情をひしひしと感じさせます。しかし彼女はあの場に倒れ込んで胸を落としてしまっているのです。その場に帰ることは無理だと理解しているのでしょう。ここでもし、彼女の体制が低く胸を落としたモノではなく、髪の毛が風にながかないただ逆立っているものであったなら、この作品は悲しみの感情と憎しみの感情の作品になっていたと思います。少しばかり作品の構成を変えただけで、まったく別の内容になつてしまうところが絵画の面白い所であり、作者の力量を感じさせる所であると私は考えます。

作品について見た目的な感想をまとめたところで、この作品の内的な感想を、私なりの解釈を含めながら、彼女の人生の物語を創造することで語ろうと思います。私はこの作品の本来の意味を知らないで、自由な表現をまとめます。かつて彼女は、温かな家庭の一員として育ったのではないのでしょうか？そして相応の年齢で結婚をしたのは良かったのですが、嫁ぎ先からは爪弾きにあい、追い出されてしまいます。実家に帰ろうにもその場所は既に自分の居場所ではなくなっていて、彼女は絶望します。あの時私が嫁いでいなければ私は今でもあの暖かい家庭の一員だったのだろうか…。ああ私は人生の選択を誤ってしまったのだろうか、正解はなんだったのか、これから先はどうすればいいのか、私の居場所はどこにあるのか…という物語です。

ほほ  
連続  
想  
でき  
ぬ

私は7月から大学の寮生活を始める予定なのですが、毎晩こういった  
悩みに頭を支配されます。私がこの家から出ていった4年間で、  
この家族はどのように変わってしまうのかと、私の知らない所で  
私の居場所が侵食されていく恐怖のようなものを感じます。  
そういう現在の心境もあって、このような解釈にとどまりました。  
絵画とは、見る場面やその時の人の心情にも左右されるもの  
なのかと感じました。私はこの作品に、共感したので 好感を  
持ちました。今回は私の自由な感想を述べましたが、本来の  
作品の意味も含めてもう一度この作品を考え直してみたいと  
思いました。

■ 美術感想文

提出日： 7月 7日

図 (A) B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4203	湯川 愛子

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
 タイトル 7月夜

見れば見る程、何を描いたのか わからなく感じいく。  
 一番最初に見た際に 人物画だと思ったので、それではいいかな。

私はこの背景に使われている青色が好きだ。 ふわとした柔らかな  
感じがするのに、すべてのものを巻き込んでいくような深さがある。  
 この場面は夜なのだと思う。 深い深い、明け方とかが悪いように  
 思える程の夜のようだ。

そこで一人、月を見ている者がいる。 大きな目をしている。  
 目の前に広がる月も、植物も、自らの記憶に残すために  
 大きな目で見ている。 見られた月は彼に気が、その目力に  
 悩んでいる。 植物も彼の月に傾けられている。

静かすぎる深い夜中、 行った状況は反対に、彼の  
 中身はとて エロキだ。 胴体にあたるどめりう部分の  
 鮮やかな赤色が、これと表しているように 思える。  
 月と植物といったような自然の力と、彼は体感しているだろう。  
 それらと吸収して、明日も頑張りたくと思っっているのが  
 かもしれない。 行ってあげるならば、私も彼を見習いたい。

この絵を見て、私はこのように思った。 抽象的な  
 表現は、さまざまなとらえ方ができるから 嬉しい。

■ 美術感想文

提出日：7月7日

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名

4203 湯川 愛子

タイトルの欄に「作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。」とあり、  
 湯望

この絵を見たにはあると思うが、題名がわからない。  
 しかしこの2文字が可なり出てきた。"湯望"

遠くの家、広い原っぱ、そして一人の女性が描かれている。  
 彼女は何故このように崩れがた姿勢で座っているのか？  
 遠くにある家を見つめている。あの家が欲しいのか？  
 それを彼女の夢の中か？ 自己開拓を促すには広がる自然  
 と家... いや、しっくりこない。

私は恋人に会いたくても会えないという解釈がしっくりくる。  
 決して別れたわけではないが、周りには認めてもらえない  
 関係... 彼女はどんな状況と乗り越えても... という  
 思いだが、どううまくなるのか。壁も何もなし。原っぱで  
 ものの、近づくことができないのは、自分の中にも少なからず  
 諦めの気持ちがあるから... しかし会いたい、認めてほしい  
 と渴望する...

そんな風に私は解釈しよう。

外間的なところに着目する。写實的に描かれていて、  
 生々しいが伝わりやすい。

草の色や細かな描写も私は好きだ。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4204 氏名

内田 侑岐

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

クリスティーナの世界

クリスティーナとはこの女性のことを指しているのだろう。全体的に暗く  
 悲しい雰囲気をまとっている。奥には農家と思われる建物がある。クリス  
 ティーナは転んでしまったのか、農家の方を見ながら体を少し起している。  
 まとめられていた髪は少し乱れており、風でそよんでいる。草原は境目  
 はっきりとさせ、クリスティーナと奥の農家がまるで空間が違う、  
 別世界の様に見える。クリスティーナが奥の農家にはたどり着く  
 ことができないかのような感じをさせる。クリスティーナの服を見てもあまり  
 富んでいるようではなく、苦勞して働いているのではと思う。髪が  
 乱れているのは苦勞の表現だろう。彼女にとってあの農家は何なの  
 か。恐らく、あの明るい草原の空間などから考えて、彼女が幸せを  
 感じていた場所なのではないだろうか。そんな家を離れて  
 苦勞する生活をしている彼女は、すがる様にあの幸せだった世界を  
 見ている。でも帰ることか、ですす振り返るだけ。そのことに絶望  
 している様にも見えるし、また「あきらめきれず」、じつ...と見つめて  
 いるともとれる。彼女の後ろ姿が不思議と応援したくなる。番  
 私たちに向かって応援している様に感じた。夢を見ている姿は  
 今の私に似ている、不安で苦しい中「あきらめず」見つめ続ける  
 姿勢はあこがれるものなのかもしれない。作者は何を思って描いたか  
 分からないが、手か、とどかない夢、目の前に見えてもう少しで「ある」という  
 気持ちもいたっていたのか。ただ「私は、心ははってあの農家に  
 たどりついてほしい」と思う。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図 (A) B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

4204

氏名

内田 侑岐

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

パイプを吸う男

(A)

男性に見える。年齢は40代位で口の上にヒゲがある。天気は晴れていて散歩をする中、パイプを吸っているのだろう。なんとも穏やかである。私は初めて見たとき、男性は何か面白い事を話しているのだろうかと思っていた。空色の背景は冷たく感じ、男性からは空間を暖めようとしている。男性はキヤクが好きなのかもしれない。背景は周りの人の心を表しており、黄色はキヤクで赤は男性の心を表現している。男性の心は興奮していて、自分のキヤクは面白い、おと皆笑うだろうと予想している。その形は脚の高鳴り、上へ上へと競り上がってくるような動きに見える。男性のテンションと背景の落ち着いたテンションの差は男性の存在を引き立てると、このような内容が感じられていた。しかし、この作品はもっと単純であり、絵たけには情報が少ない。なぜ、具象的でなく抽象的に描くのだろう。

ミロの作品は抽象的な作品であるが、とても想像力をかき立てられる。見る人によって何を表現しているのか、読み取り方は自由である。また、赤、青、緑、黄色、黒、白の作品がタライごとから、色からの連想が鑑賞者の思考を抑えつけない。自由に広げることが出来る。それでも作者の表現は、ことごとから離れないように題名がつけられる。『パイプを吸う男』という題名は好きではない。嫌いという訳ではないが、たまたまパイプを吸っているというたけで通り過ぎてしまいたいようなのだ。ミロの描く作品の中でめずらしく背景を感じさせる。わざわざ「天気は晴れ」と伝える必要はなかったのか。パイプを吸う気持ちの良さを表したのか。晴れた空だったのか。ミロはパイプを吸う時が一番平和に感じる時間だったのかもしれない。単純な気持ちの表現を単純な絵で表現する。たからこそ細かな情報が少なく、見る人によって形が変わる。この題名がなくても十分面白い作品であり、平面的なのに男性の生き生きとした心を感じずにはいられない。ミロの作品に題名は必要でないと私は思った。



## ■ 美術感想文

提出日：7月9日

図 (A) B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4205

岩瀬朝子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

優し

優しい感じかする絵画である。具体的な形は一切なく、抽象的である。なぜ優しさを伝えてくるのであろうか。まん中にある大きな白い物体は人に似ている。頭があり、鼻があり、目があり、首があり、胴体があるようである。目以外の部分はシルエットでわかる。しかし、目はそのシルエットの中に黒い線で大きく描かれている。目の形は丸くはない。目尻がフリフリしているようである。もしくは眉間にしわを寄せてくると何かを堪えているようである。そして目から運んだ何かをでている。堪えようと耐えたかと思わす耐え切れず出てきた涙という感じもうける。私も人前で涙が出そうになったとき、泣くのはずかしいので「泣いてなんかいないよ。」という表情で、密かに目にかも入れて堪えようとするだろう。この絵に優しさを感ずるのは気持ちも通じ合っている感覚を得られるからかもしれない。また、この人のようなものには口がない。それゆえに目の存在が強まっているようである。

絵の中で色として存在の強い黄や赤の物体は何であろうか。黄色いフニャフニャしたものはとてもやさらかそうである。白い物体の形にうまくフィットしそうである。何かかみを優しく包み込んでくれそうな感じかする。黄色い色も軽快で堅苦しくない感じかする。赤いコロコロとしたものは何であろうか。心臓や内臓のように見える。ということはこの白い物体には生命が宿っているということではないか。たしかに生きていないと嬉しいとか悲しいとか感情を表すことはできないだろう。しかし、改めて、生きているから感情を表し、伝え、共感させることができることに気がついたのである。この絵画は優しさを伝え、見ている人の気持ちまでも快くさせるものではないかと思う。

## ■ 美術感想文

提出日: 9月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4205

岩瀬 朝子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を添削する。

クリスチーナの世界

力強いなというのからこの絵画の第一印象である。恐怖心を抱くほど何か強いものを考じる。

全体の色合いは茶色、ぽく、古めかしさや懐かしさを感じさせる。また、同時に、新しい感じかしないため、期間限定感がなく、永遠に存在し続けてくめるような感覚がある。

絵の中で一人の女性が主役で、もとクリスチーナであろう。彼女は家を見つめている。それは単純に見つめているのではない。ぼーと見つめているのではなく、じーと集中して見つめているのである。彼女の顔はこちらからは見えない。しかし、彼女の体が執念のような強さを放っている。腕や背中、尻ほど体の感じを見ていくと、細くて骨ばっていて固まっている。そしてこの姿勢はとてもしんどい。地面に寝転んでいるのではない。わざとわざと細い腕を地面に立てて上半身を立てているのである。もしかしたら、あの家を求めて必死で起き上がるようにしている最中かもしれない。すると瞬く間に緊張感が高まってくる。絵はこの絶妙な感情を永遠に残すために描かれるものなのかとも思う。

女性はピンクの服を着ている。体の形に恐怖心的な感じを抱きやすいからピンクの服がそれを気高い望み、夢に変えているように見える。つまりこれらのことから「クリスチーナの世界」なのかもしれない。彼女が年老いたり、亡くなったりしても、何十年、何百年の時が経っても、力強く決して消えない彼女の野望なのであろうか。

■ 美術感想文

提出日：7月7日

図



- 1点提出
- 2点提出

学生番号

氏名

4206

蘇野 麗

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

進化して、ミジンコ

淡いブルーの背景に黒、白、黄、赤の4色で描かれたこの絵。

まず目に取び込んでくるのは黒で描かれた部分だ。目の様な模様から放射状に見えるところの感覚に似た何かがある。

私の第一印象は「ミジンコ」である。形状がまるく、く

だ。しかし、このミジンコ本体から何が、という赤いものは何で「ささ」横にある黄色い線のほうはものほ？果たしてミジンコに何か起こった、というのだろうか？

この絵を見ていると、白い背景に浮く周りに置かれた白の本能が「じわじわ」として見えて来て、真黒な点々列は目をあつた気分になる。唯の点々のみに力強く、こちらを射抜くかのように絵は動かさない。

このミジンコが非常に攻撃的な印象を受けた。一切の動きを感じさせない絵画、というのでもめずらしい。不動のミジンコはじわじわと進化を遂げ、新しい体をつくる。中に赤い物体が見える体だ。中には臓器のように見える。ミジンコはついに血のかたまりを入手した！

これらからも動きや流れや相は一切考へられず、死に立つ臓器が「じわじわ」として「け」がある。死に立つ中の暖かさ、不動の中の重さが見えてくる気がした。これはこの黄色いものは？曲線を描かれている。の縞の中でとりかけ曲線が激しくゆらゆらと「め」しているが、やはり「じわじわ」といっている。

何を伝えたのか、何が描かれているのか、おぼろげと、動きと不動と一糸着かたにまとめられた絵画という印象が「ささ」のこのこと。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4206

萩野 麗

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

ア・ド・1/2 - ワイツ「クリスティーナの世界」

画面11.180(11)に描かれた柔らかな草原の上に置かれた  
 ように女性が倒れ込んでいます。彼女の視線は画面右上の家  
 に向いています。左手の先も家に向かっています。その右側へ行くと  
 のに行くと、というふうな印象を受けます。

そして、誰かに飛ぶように転がったように見えるが、あたり  
 人は見当たらず、その女性の家へ対する執着というか、心の向きが伝わっ  
 てくる。こちらを見ている、手も袖も、髪は揺れている。

ア・ド・1/2 - ワイツ作の「クリスティーナの世界」である。ア・ド・1/2 - の描いた  
 この女性は、題名通り、クリスティーナという。彼女は小児麻痺を患って  
 影響で足が不自由なため、クリスティーナは誰の助けも借りずに  
 ずっと自分の家まで戻っていく。その様子を見ていたのか、彼女の家の  
 2階をア・ド・1/2 - が描き写してア・ド・1/2 - ワイツである。

私が思うに彼女は足が不自由な事に何もかも諦め等を感じていた  
 かったのだらう。自分は普通の人向と何も違わないと生きている  
 力強い女性。そんな彼女が感じていた風や、柔らかな草、空、  
 家までの道、それすらも感じることができた。

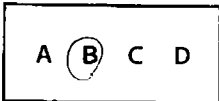
動いている「静」の絵画の中に、「動」を感じることができた。時  
 が止まったような作品だと思った。全てをリアルに、空間や雰囲気  
 その場から振るって、額に入れたかのように。前後りつたり、  
 世界感というものを、私は彼女の中へ、生命と共に感じたと  
 感じた。

二枚の絵からみれば、生命は、筆舌に尽くなく  
 私達はいつまでも、この絵にとどめられた「時間」を受け取り  
 事に出来る。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図



- 1点提出
- 2点提出

学生番号

氏名

4207

佐々木絵麻

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

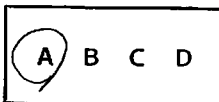
自分で考え 家を追いだされた娘

白紙

この絵を見て映画のワンシーンのように感じた。とても写実的だし、色合いもいいかんじで、特に手前にいる人のポーズが、どこか演技くさいなと感じたからである。ふつうに生活していて、芝生の上でこんなポーズとるなんてありえないと思った。おたしなりにこの絵のストーリーを考えると、女の人は右奥にある家の娘だ、下けれど、悪いことをして、親に家から追い出されてしまった。だけれど女の方は家に帰りたいので、遠くから家の方を帰りたいように見つめている。あくまで、私の妄想なので、実際は全く違うと思うがこんなことを考えた。ただ、女の方が右奥の家を意識しているのは確かである。そうでなくてはこんな意味ありけに右奥の家に体を向けている理由があからない。あとこの絵で不思議だと思うのが、朝か、昼か、夕方かがあからないことだ。空はくもっているし、絵の全体がフィルターがかかかっているように薄暗いので、いつなのかがあからず写実的なのに、空想の世界のような雰囲気が出ている。そして、芝生が絵の一面に広がっているのもしおもしろいと思った。もししたら外国だと普通なのかもしれないけれど、それにしても、右奥の家と、倉庫？と畑以外に、家も、木も何も無いのが不思議だ。これもこの絵が空想の絵に見える要素の一つなのかもしれない。

よく絵を見てみると、色々不思議なことが、とんとん出てくる。とても不思議な絵だ。もう一つ、芝生の色が若干違うことに気がついた。芝生の長さが違うのだ。たぶんキレイにそろえてあるのは右奥の絵の敷地内だろう。女の方は手入をされてない芝生の上にいるので、やはり家を追いだされたのだろうか？早く真実が知りたいと思う。

図

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4207

佐々木 絵麻

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

自分で考えたタイトル 悲しみの気持ち

まあ、この絵をみてはじめに思ったことは、抽象的な絵だなということと  
 思った。右側に人らしき白いシルエットと左側には真、黄色なよくわからない  
 形をした物体。背景は青だが、濁った青でどこか暗い雰囲気である。  
 なのに、画面に白と赤と黄色という明るい色が入っているので不気味  
 さをかもしだしている。ぬり方も、ペタペタとぬっているので質感が全く無い。  
 この絵は一体何を表わしているのだろうと考えた。人の形をしたようなもの顔  
 の位置に丸の中に黒点がある。目だろうか。その目から葉、ほのよなもの  
 がでてきている。目から出るものといえは涙しかないからこの葉、ほのよなもの  
 もは涙だろうか。胸のあたりに2つある赤いものは何だろうか。何かはわか  
 らないがこの絵の中で一番目立つ色をしている。内臓だろうか。人の顔の正  
 面にある黄色の物体は何なのだろうか。よく見ると先端が赤い。黄色という色  
 もこの画面の中ではすごく目立つ。そして異様な形をしている。不安になる形  
 だ。私はこれは人の心かなと思った。この白い人の心をあらわしている。不安定  
 なぐにやぐにやしてる形は負のイメージがある。

じっくりこの絵を見ていて、私にはこの絵は不安や悲しみとした負のイメージ  
 がある絵だなと感じた。背景の青から、人の形をきちと描かないでぐにやんと  
 している感じとかからこの絵を見ると暗い気分を連想させる。

この絵の作者は絵を描いていたとき悲しい気持ちだったのだろうか？この絵の  
 画面から、私はとても暗いイメージを感じた。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4208

麻郷地さゆり

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

家に戻りたい。

女性の髪の毛の乱れ具合と服のうす汚れた感じが、お金が無くて困っている雰囲気が漂ってくる。女性のポーズが泣き崩れているように見え、ドラマでよくある大切なものをうばわれてどうしようもなくなっている悲劇のヒロインを連想した。女性の視線が向こう側にある壁に向いているので、家を失ったように見える。そして、画面には人はこの女性だけで、しかも周りは草原だけしかないのだから家だけではなくて家族も同時に失ってしまったように見えた。女性と家の近からず遠からずな微妙な距離感が女性には家に戻りたいけれど、何らかの事情により、家に戻ることが出来ないというせつなさが伝わってくる。家の周りの草は短かく、若の色も明るく生々しいことから人に手入れされていて、生活感が感じられ人の気配を感じられるが、女性の周りの草は長くて、手入れされていないように見えなく、生活感がない。なので、女性はあまりいい暮らしをしていないように見える。草の長さの違いにより境目がかはまりしているため、乗り越えられない見えな壁を感じた。そうすると女性はどなたかの悪いことをして、家に帰えれなくなってしまったのだらうと考えさせられた。女性の髪型と服装から30~40代前半。家は一軒家なので4人以上の人が住んでいる。女性はその家の主婦だったが、不倫をして、それがバレて家を追い出され、子どもと引きはなされた。そんなドロドロした情景が見えた。女性は一人になって家族の大切さを実感し、また昔のようにみんなと暮らしたいという気持ちになり家を訪ねようとしたが自分のしたことの罪の重さを思い出し、泣き崩れている。そんなドロドロした感じが伝わってきた。

連想的

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

① B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4208

麻郷地さゆり

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

悩みと戦う

とても抽象的に描かれた人物に見える。尖った鼻と目だりた」とアヒルにも見えるが、上半身に絵描かれている臓器のようなものが、絵描かれていることと、すっと立っている感じが人らしさを表わしている。目から出ているものが葉っぱに見え口を表している気がする。人は呼吸することで酸素をとり入れ二酸化炭素をはき出す。葉っぱも人のように呼吸して生きている。そこがリンクされて、口を葉っぱで表現されていると思う。なので人の横にあるものは呼吸から出た息のように見える。そして、息がやまぶきいろのような色なのでため息のように感じられる。息のようなもやもやと人物が向い合っているように見えるので、この人が自分のため息を出させる原因と正面から向き合っているように見える。息のようなもやもやの先端が尖っている、かつ色がそこだけ違うことから、攻撃的に見え、このため息の原因が人を悩みでのみこもうとしている感じがする。それに対して、人物の方は目がつり上がり、黒目が目の中心にあることから、悩みになんて負けないという強い信念が感じられる。

上半身の臓器の形が砂時計の形に見えた。そこから、砂時計は最終的に砂が全て落ちるので、時間により悩みが解決されるということを伝えている気がする。臓器が心臓のように見えた。人の命は始まりと終わりがあることから砂時計で、人の命を表現しているように感じられる。全部赤一色ということから、人生の中間地点にいる感じがする。背景が青系の色で、ぼやぼやしているので、不安定で重い。悩みの重こと心の不安定さがむしろと伝わる。さらに、人物から背景の色がすけて見えるので、より不安定な感じがする。



## 美術感想文

提出日: 7月17日

図

A B C D

 1. 発題 2. 発題

学生番号

氏名

4209

月岡 結衣

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

独り言

A

最初の感想は一人の人間から黄色の輪郭が浮かんでいて、人間は冷たい空間にいる。そして体の中の赤い色から生命力を感じとりまけた。目だと思われるものからは黒い葉の形をした様なものがとびでいて、黄色の輪郭とのつながりを求めていると感じまけた。黄色の輪郭のてっぺんに赤い色が少しだけ見られるのは何だろうと考えたところ、体の中の赤い色と同じ色をつかっていることから、これも生命力であるといえるかもしれない。分析してみると黄色は本体ではないけどその人に近いもので、

息をいなら出てるような透き通りそうな感触がしそうです。

目の様なものからとびでている黒いものは枝分かれしている部分や手本あるから手であるといえることにしました。目から出ている手という発想はおもしろくて好きです。その手は、視線の先の黄色を触るために目が握らうとしている表現といえます。黄色の輪郭は自分の方ではなく、自分と同じ方向を向いていると見え、もしかすると黄色の存在は人間から発している言葉なのかと解釈できるかもしれません。言葉にも命があると私は思うし、赤い色が少しだけみられるのは、糸の赤い色だと思っています。

画面には一人だけが描かれており、言葉を発してもきっと独り言のつぶやきだと思われる。背景の青い色は他の色のリ方よりもうらがあり、王や王やと描かれていて、たにか悩み事でもあるのかと思われまふ。しかも顔の向きは左側を向いていて過去を見ている印象を受けました。過去の出来事に人が何か独り言をつぶやいていて、自分が無意識に発してしまっ言葉で、それをもうとしている。つまり、言ってしまうことを後悔しと戻そうとしていると、解釈しました。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4210

津嘉田真利子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

ことは

この絵は人が小さく描かれており、一見すると抽象化された人物画であるように見える。けれど私はこの絵の主役は人間ではなく言葉ではないかと思う。人物に描かれた器官…これは目のようにも耳のようにも捉えられるが、いずれにせよこの器官は情報を欲している。自分が存在している空間から情報をかき集めようと、密かに手を伸ばしている。穏やかな青の中でひととき目立つ黄色のモヤは、おそらく言葉だろう。情報を入力して言葉として出力するこの活動は、言ってみればコンピュータにも似ている。しかしこの黄色い言葉は不定形で、曖昧な姿をしている。下地の赤は、一見黄に塗りつぶされて見えるが隠れきっていない。これは人間の言葉には柔軟性があり、しかも別の意図も見え隠れしているということではないだろうか？そして何より、コンピュータには無いものである「心」が赤々と人物の中に存在している。作者はこのような会話という感情の伝達を描くことで、人間というものを表そうとしたのではないだろうか。少なくとも現代に生きる私にはそのように感じられた。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

☒

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4211

野口 朝世

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

寂しい

「寂しい」という印象を受ける絵だ。全体的に緑がかっているから「さうか、少し暗いかな、ネガティブなような感じ」がする。女の人が家のほうに左手をのほしているので、「家に帰りたい」「家に戻りたい」という気持ちを表現したのではないかと思った。また、私は今年の4月から自家を離れて一人暮らしをしているのですが、たまたま自家に帰って家族に会いたくなります。それと同じような気持ちを表現したいと思った。家が上部に描かれていることで、女の人と家の距離がとてし遠いように見える。また、女の人がいる方の芝と家がある方の芝が長さや色が違うことで、女の人がいる方と家のある方の境目ができ、もう女の人が入ることのできない場所、女の人にとってとてし遠い場所ということを表現しているのではないかと思った。女の人のおびや足がとてし細く描かれていることで、女の人がとてし弱々しく見える。また、女の人のおび形からなのか、髪の色や髪型からなのかは分からないけれど、この女の方は若い私達と同じくらいの歳の女の人ではないかと思った。家の横にある芝についた2本の線はトラックなどの車が通ったあとなのかと疑問に思った。また、もしこの絵が家と芝と女の人だけが描かれているだけの作品だったら少しもの足りない感じがするが、小屋が描かれていることで、もの足りなさがない感じがする。

実際にこの女の人のおびをまねしてみたのだが、1ヶ月辛くてこの女の人を描く時、モデルを見て描いたのか、それとも空想で描いたのか、どちらなのだろうかと思った。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4212

熊瀬美弥帆

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

吸う人

A

「こいつは誰だ」と思った。そもそも「誰であるか」と言っても、人であるのかすら怪しい。もしかしたら鳥かもしれないし、はたまたこの世に存在しない空想上のものかもしれない。ただ「生き物」ではあるのだらうとは思ふ。ここで私が考えている「生き物」は命のある「しは関係ない。絵」という平面上、点や線から成る二次元の世界においては、「生き物」という言葉の定義は、自分勝手に決めていいと思う。自分が生き物だと思ふなら生き物、思わないのならそれでいい。ただし作者が明確にそれを位置づけている場合は、また話が違ってくるが。私はこの絵も、この絵に対する作者の見解も知らないで、この白く塗られた物体を、勝手に「生き物」、それも「人」だと思っている。長い首の下の体の部分には、真っ赤な内臓があるように見える。この赤いものは心臓なのだろうか。今にもどくんとどくと動き出しそうだが、鮮やかな赤である。この白い生き物にこれが存在しているからこそ、私は人間だと思つたし、とてつもない生命力を感じたのである。背景がくすんだ青であるのも、この赤い血肉をきわだたせるためのものであるとさえ見えてくる。

と、ここまで考えてきて、もう一度絵をじっくり見て、私は、ハッとした。口のあたりからつたがっている草のようなもの、そこから出ている煙のようなもの。これはもう煙草を吸っている人しか見えない。この絵の中でもう一つ目立っているのが、この黄色く塗られた煙である。先端には先程の赤がちょんとのせられていて、炎のようにも見え、ゆらゆらと燃えあがっている。また目のあたりだけ青がほやっと浮いていて、涙のように見える。作者はこの絵にどんな思いを込めたかから描いたのだろうか。この絵にはとにかくX-ジェン性があるように思えるのだ。それはやはりひとときを際立つ鮮やかな赤や、まっくら塗られた黄色からビビビと伝わってくるのだ。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4212

熊瀬美弥帆

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

・ 孤独

- ・ 全体的に緑色であり、手前の女性の肌も、空の色も緑がかっていることから、非常に不思議な一体感を感じる。
- ・ 手前の女性がいる芝生は、草が伸び放題だが、女生がいるところから少し先の芝生が刈られていて手入れされているように見える。
- ・ これは今の彼女の立場や身分、状況を表していると思う。
- ・ 女性の髪がたびびいているようだが、~~風が吹いているのだらうか。~~
- ・ 後ろ姿で表情が見えないのが怖い。
- ・ シリウスな雰囲気を感じる。
- ・ 比較的年が若い女性に見える。
- ・ どうして女性はこのようなポーズをとっているのだらうか。右手で体を支え左手を前方に出し、進もうとしているようにも見える。
- ・ 草が一本一本丁寧に描かれている。
- ・ 遠くにある建物も、はっきりした線で、きちんと描かれている。
- ・ 作者とこの女性は、どういう関係にあるのだらうか。
- ・ 女性の足や手が草に同化しようである。
- ・ 手の影や、建物の影があるところは、現実味を感じる。
- ・ 車輪の跡かのようなものが見えるが、向こうの家に人が住んでいるということか。
- ・ たまにかま糸があるように見える。
- ・ 写真のようだ。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4213

鈴木 真梨奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。

「ミロ」

A

「夢」の印象を大きくうけた。私には鳥の目から草みたいなものがどう見えてしかなかった。そして隣には強い黄色のふにやりにしたものをよくわからないが、鳥のような白い物体からどう見えてもみえる。全体的に薄く淡い青であるので、どんよりしたような、空気がと思うとそれらの物体、そして鳥のようなものに内蔵されたようにもみえる。強い赤に目がいき、どんよりした空気は打ち消されて、ますます変な空気になる。背景の薄く淡い青は単色ではなく、白と混ぜてモヤモヤ描いて、乾いた上から単色の白、黄、赤、黒で描いている。そのアウトラインはとてもきれいである。背景の雑といたらず失礼だが、雑さとその上からの単色のきれいで、フリ合いがとれて見ていて気持ちいい。

ポップなのに恐怖を感じるのである。私は白い部分が頭、くちばし、首、体に見える。そして鳥に見えてしまう一番の決め手が目である。ポップなまわりの鮮やかな色の中に、黒く、細いがしっかり一筆描きの目(に見えるもの)があるのである。その線はきれいな円ではない。しっかりとした線でゆがんだ丸を描いている。それもまた「おかしな原因」でもあるが、それはおいといて、目がくちばし(に見えるもの)に対して逆向きに伸びてゆがんでいる。つまり上がり目、フリ目なのだ。そして黒い小さい点がつり目の中心にある。これは、まるで、動物が怒ったときの皮ふがつり上がり、カッとまぶたを開いた目のようだが、鳥を描画したようには見えない。本当に変な絵である。

最初この絵は色のアウトラインが美しいので、下書きをしっかりと貴重面な作者であるのかと思ったが、白の色の、私が見える黒い線の内側のアウトラインはここぞとばかりに雑である。そこだけである。なのでそこに目がいてしまう。まさかそこを目立たせたいがための雑さであるのかと思ったりする。わかっている。色、塗り方の材比をうまく使っているのだ。全体的にまとまっていて、たせかよくわからないものに心地よさを感じる。本当に変な絵である。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4213

鈴木 恵梨奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

届きそうで

美しい、寂しい そんな印象をすくつけた。絵全体が緑に包まれている。その中心的存在は草原の上にいる女性である。後ろ姿だが、その女性が奥にある家を見ている。足が奥の奥の奥、私には、足をひきずりながらこの場所まで来たように見える。お尻の部分が緑(草の汁)で汚れているし、手を使ってゆくりゆくりここまで家に向かっていたのではないかと、思う。髪をしばっている。二人は大きな束なので、あまり髪を切っていないのではと予想できる。黒髪をやせている。

空、草原が絵の大半を覆っている。絵にはおさまりにくい、広い画面が想像的。実際にあつたようなリアルさがある。私も高校生とき、この絵の草と空の割合と類似した絵を描いたことがある。このとき、ここまで広大な大地の一部を切り取ったような感覚は、自分の絵にはなかった。遠いは遠近法がこの絵には強く用いられていることだろう。

私は、この絵の意味を考える前にまず色合いが特みであることが好印象であった。特に、空と同じ比率で庭が遠くに描かれている。そしてその庭が左側までずっと続かない。途中で切ることによって濃い緑の草原と明るい整えられた草がはっきりと空との境界線がくっきり分かれて気持ちいい。そして平行ではない。この絵は構図として全体的に右上の家視線がいくように描かれている。右上の家から出る草の上の2つの線。車のタイヤの跡であろうか。だとするとこの絵の時代はそんなに古くはないだろう。整えられた草ももう少しなので、届きそうでとのと勝手にもどかしくなる。がんばれ、と応援したくなる。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日月

図

① A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4214

佐々木 歩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

パイプを吸う男

抽象的な絵だと思った。鮮やかな赤・青・黄・白・黒によって構成されている色面構成だと思う。この三原色＋白と黒というものは、本当にシンプルな配色で、それこそ三木の作風のひとつだと思うのだが、特に気になったのは、背景と思われる青い面だ。この面に所々見られる白いもやもやの影響が、この絵全体が曖昧な雰囲気というか、漠然な雰囲気というものを持っているように感じさせられるような気がする。

また、色面は色面でも、青の中に赤みを感じられたり、白の中に赤みを感じられたりするのにも気になった。これは、個人的に好きな効果だ。初めに抽象的な絵だと思ったとあったが、これは互いの色が互いに影響し合っている、ひとつの空間を表しているのではないかと思った。

白い面は人物を表しているのだろうか。左向きの顔に、首、肩と見ることが出来る。だとすると、この人物は、何を見て、何を思っているのか。そう思えたときに、人物の目線の先にある黄の色面と、人物の内側にある赤の色面が深く関わっていると思う。黄の色面は、色との境界で作っている輪郭が、ぐにゃぐにゃと曲がっていて、うまくイメージにはまるものが見つかからないので、これはもしかして不定形なものではないかと思った。人物の心情にあたる赤い色面は、強い色面だ。何を思っているかは分からないが、これはこの人物の強い感情、または生きている実感を表しているのではないだろうか。

はじめにあったように、この絵がつくっている雰囲気は、非常に曖昧なものだと思う。



## ■ 美術感想文

提出日：7月7日 月

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4214

佐々木歩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

クリスティーナの世界

A

写実的で、それでいてテーマ性が感じられる作品だと思った。この感覚は、なんといっても構図による影響だと思う。地平線が画面ぎりぎりの上のところにあって、家が見える。そして手前には、その家を見つめながら腰を落としている少女。

この絵の特徴は、少女と遠くの家との距離感が感じられる所だと思う。それはなぜかと考えたとき、やはりひとつは以上にあった構図、つまり地平線の位置による影響が挙げられる。遠くの家を少女が見つめているのはなぜだろうか。もしかすると少女は、遠くの家に向かっているのか、もしくは遠くの家を憧れているのだろうか。

全体的に緑の雰囲気にとままっているのが個人的に好きだ。それは、緑は幅広い色なので表現は多彩だが、統一性を持たせるのが難しいからだ。しかし、この絵で、重要なのは、少女も家も比較的写実的なのに、手前から奥まで続く草原だけは単調なことだと思う。単調な景色が続くと、近い距離も遠く感じてしまうことがある。つまり、これも距離感を感じさせる要素としてあると思う。

少女と家との距離が感じられるこの絵だが、どこか悲しさや寂しさのようなものを感じる。遠くには家があるのに、近くには家がないからなのか、そもそも遠くの家と少女とはどのような関係があるのか。少女は、やはり遠くの家に行きたいのではないだろうか。しかし、なぜかは分からないが行けない理由がある。この絵が醸し出している寂しさは、そういうことだと思う。

図 (A) B C D

1点提出  
 2点提出

学生番号 4215 氏名

垣地 亜由香

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記述する。わからぬ人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

青空と横顔

A

まず、この絵画を目にして感じたのは、不思議な違和感だった。画面全体はどんやりとくもった空のような鬱蒼とした青で、エイリアンのような不気味な頭部を持つ人間らしき横顔と、その瞳に生えるようにして伸びた植物のようなものと、それに沿うように黄色いももせとした物体が宙に浮かんでいる。特徴だけ挙げれば、ひどく異様な不気味で、悲しいネガティブな印象を浮かべてしまうだろう。しかしこの絵画を、実際目にしてみると悲しいと言うよりはなんだか楽しい印象を受けると、不思議なやすらぎや安心感を与えてくれる感じをするのだ。この絵画は我々鑑賞者を拒絶していない、そう感じさせてくれる魅力がある。その魅力の一つは印象的故、幾科学的にデフォルメされた大きな瞳だと思ふ。幾科学的だが、無機質では決してない小さな子供の無指で大きな瞳のように潤みを揺れているような生き生きとした有機的な線で描かれている。横顔を描写している白が恐らく意図的にはみ出しているのもより瞳を強く印象づけていて妙な立体感も感じることが出来る。この絵画はミニマルな図形で単純化されたモチーフ達が整然と、美しく置かれたデザイン的な構成の美しい作品のように見える。実際に構成は美しいし、幾科学的な図形は安心感を与えてくれる。しかしこの絵画からは、と別な安心感があるような気がする。まずは色、背景の青に引きつけられてしまうが良く見れば画面の半分は黄色がかった白と赤、黄の三色の暖色で占められている。そして背景のわずかなような青色にも紫や彩度の高い青、白がふわふわとちらほら見え夢を見る青空のような非現実さや浮遊感を感じさせる。そしてこの絵の曲線のやわらかさや、たよりないフィルムからは、どこか我々が皆幼少期に描いてきたような絵を行彿とさせる。それもごく昔の、まだハニのにぎりたも満足に賞えられず、小さな拳でハニをにぎりこみ斬り、はりに線を引いたあの時の絵に、どことなく似ている。その絵が色を持ち物体となってゆらゆらと夢の中で具現化して立ち上がり、動き出しているような、そんな気がして不思議なやさしいやすらぎがこの絵画からはあふれているように私は感じた。大人にも子供にも大きく両手を広げ、向かえ入ってくれ、そんなおかしさをこの絵画は持っていると思う。

■ 美術感想文

提出日: 7 月 7 日

図

A B C D

1点提出

2点提出

学生番号 4215 氏名

垣地 亜由香

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記述する。わからぬ人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

家を見上げる女性

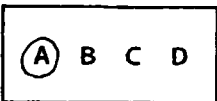
A

まず、全体的に細かく描き込まれた写真の様に写実的な絵画だというのが第一印象だ。しかし良く見ると手前に横になり手をつき、見上げる女性と、地面に伸びている草は、どこか不自然な様にも感じる。良く見るときちんと描き込まれているのは女性と奥の建物だけで、特に手前の草はどこか平面的にも感じられる。つまりこの絵画は写実を目的とした絵ではないのだろう。では作者はどのような意図でこの絵を描いたのか、私なりに考えてみた。まずこれが11月の時代を描いたものが、場所は家が石造りのため、ヨーロッパである可能性が高い。建物の造りも古い印象を受けるため、今より50~100年前を描いているように思える。また建物の色が無彩色なものも、気になる。しかし、手前にいる女性の服装は50~100年より前と考えるには少しおかしな様に感じる。この女性は髪は黒、画面が緑、ほら、ことを考慮しても黄色人種ではないかと思う。服はワンピース、髪を後ろで結びまとめ、くつを履き、タイツが長めのくつしたのようなものをはいている。昭和辺りの時代を生きる東洋人の中流階級~下流階級位の女性ではないかと考察してみると、どう見てもたぶんこの女性がこの画面にいるのが不自然に思えてくる。この絵画は女性が見ているまやかしを絵に表したもののではないか、と言う仮説を立ててみる。すると女性からは悲状感をたたえ、何かにぶかるように身体を上げて、手を伸ばす手前のような哀愁が感じられる。そして女性が身体を起し、必死に見上げる視線の先には、ふと大きく描かれている石造りの古風な家だ。この女性は向を思、てあの家を見上げているのが、画面の色彩はくすんだ緑、あまり明るい前向きな印象は受けとれない。むしろこの女性は何か打ちひしがれてうつろな瞳であの家をながめているようにも思える。あの女性はもしかすると何も考えていないのかもかもしれない。広大な野原と暗く遠いあの家からどうしようもないくらい虚ろが確かに存在しているように私には感じたのだ。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図



- 1点提出
- 2点提出

学生番号

氏名

4216

飯岡 千織

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

(自分で考えたタイトル) 「タバコをくわえた人」



一見するとただの子どもの落書きで、人、ほいもの、動物、ほいもの、はたまた意味

不明な形... 正直言ってなにを言っているのか分からない。分からないからこそ分かるようにするために「じっくり見る」。そうしているうちに自分の中にあるなにかがこの絵に共感し、いつの間にかこの世界へ引き込まれてゆく。

子どもの落書き、ほいからこそ、無邪気や無垢な雰囲気をもっている。なのにここぞという所で核心をついてくるような鮮やかな色使いがされている。そのことによりなにが訴えてくるような涙で潤んだ子どもの瞳が連想させられる。一体なにを訴えているのか。

この絵は多分、主役も脇役もなく描いてあるものすべてが合ったりようやく完成する。

ずいぶん計算されているんだらうがそんなことは感じさせない。(これも計算) この絵からは

そんなしたたかさではなく、触れれば壊れてしまうような優しさ、脆さ、そしてなにかに怯えているかのような印象を受ける。そして、その印象に私の中にある子どもの自分が痛いほどに共感し、ひょこりと現れる。一気がつければその感覚は私全体に広がっている。

これは、子どもの自分(これはどんなに年をとっても消えず、いつもどこか目立たないところに潜んでいる)から今の自分へメッセージを伝えるための手段となってくれる絵なんだらう。忘れかけた

いた懐かしさ、忘れようとしていたやらかした体験、恥しさ、忘れたかたの悲しさや寂しさ、一気がつければ次から次へとフラッシュバックしている。「子どもだった自分の感覚を忘れないで、そんなメッセージを伝えてくれる。今の自分だけだと理解できないだらうから、と子どもの自分を連れてきて、

「この体験は、じっくり絵を見てくれた人にだけプレゼントしよう。」「題名を見て、さらっと絵の表面のみでくれない人には教えてあげない、そんな無邪気な何ズラバから、

この絵のメッセージとは全然関係のない題名をつけるのだ。幼稚園の先生が無題だった子どもの絵に無理矢理題名をつけるように、「なんかタバコ、ほいものをくわえている人、ほい絵に見えなくもないから、そんな感じで付けよう」と。

そうして、この絵に「タバコをくわえた人」という題名が付けくわえられた。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図 A (B) C D

1点提出  
 2点提出

学生番号 氏名  
4216 飯岡 千織

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
(自分で考えたタイトル) 「 marriage 」 A

全体的に緑色をしている。緑は普通リラクゼーション効果があるはずなのに  
そんな雰囲気は感じない。人の肌色の緑みがそうさせているのか？しかしなにが矛盾した  
印象を受けるのはそのせいだけではない。この画面にはゆとりとした時間が流れているし  
激しく渦巻いたものを感じる。なんだか現実味の無い夢の中にいるような感覚になる。  
しかし、(作者が違うから当然と言えばそれまでだが...) ダリの絵のようないろはな感覚では  
なく、なんだか他人事だろぞう割り切れないような一と自身の人夢を覗き目しているような  
一も、と言えば風邪を引いたとき視界や脳内、体全体が宙に浮いたようになるあの感覚  
になり、少々とまどいて覚える。(自分でなにを書いているか分からなくなる程とまどいてる。)

人物にすぐ目がいくのだから、主役であろう。髪型 服装 からして、20代後半から30代前半の  
そんなに若くもなければ年をとっているわけでもない女性だろう。なんだか切なそうな雰囲気と醸し  
出している。緑色一切をそじしている女性一家という組み合わせだからだろうか、なんだか  
結婚を夢想、せられる。

手前の芝生は暗く、また女性の髪も乱れている。最初に感じた激しく渦巻いたものは  
これから発生したものであろう。それとは対照的に奥の芝生は明るく、家の周りにも穏やか  
な幸せに満ちている一空間が流れている。この世界は別の空間上にあるものを同じ一つ  
の画面の上に構成されたものである。(矛盾はこれからきたものだろう。)

結婚適齢期であるが結婚できないときの女性の心境、歳をとるとともに遠のいてゆく  
気がする家庭を持つという幸せ、結婚への憧れ、希望...この絵はそんな女性の心理を  
描写したものであるだろうか。これまで世の女性からクレームが来てしまいうたが、しかし  
地平線が右肩上がり描かれている。これはこれから幸せが訪れるという暗示ではない  
だろうか。今は少し落ち込んだり悲しかったりすることもあるだろうが大丈夫だ 安心しろ”  
そんな作者からのメッセージが伝わってくる。

なので、私はこの絵のタイトルに marriage とつけることにする。幾分安直な気もするが、  
この絵の素直な描写と関連させてみるとそれが妥当であるように感じる。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月 7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4217

明城 理紗子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「静」

正直なところ、個人的に抽象画は考察が難しく、伝えたいことがわからないと思ってしまうので、この絵のこともあまり好きではない。しかし、今回はできるだけ、今まで素通りしてきた抽象画と向かい合うという意味で、いつもよりは長く、自分なりに考察したい。

なんだかよくわからない形が平面上に描かれているのだが、私は描かれているというよりは、絵の具が乗せられているという風に捉えた。大胆で大雑把に見えるけれども、慎重に色が乗せられていると思う。「静」という言葉が似合うから、私がタイトルをつけるとしたら、安直に思われるが「静」としておこう。まず私にはこの絵が抽象画でありながら人物画だと思った。横向きで、目があって... それ以外は、やっぱり考えてみてもわからない。ただし、どの作品にも言えることだが、絵に正確など無い。だからわからないものはわからないままで、それ以上深く考えたくはないが、この絵には正確は無くとも、少なからずの意味は隠されているはずなのである。ピカソのような単純化した独特の画法が用いられているのは、作者が意図的に作品を作ったしか思えない。

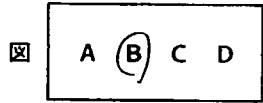
それにしても本当に不可解な絵だ。惹く塗りたくられた背景に、薄く塗り重ねられている色は限られている。三原色に白と黒を合わせた、バランスのよい色彩である。赤い玉が二つ繋ぎ合っているのは人物の内臓か何かか？私が一番不思議に思ったのは、人物の左に描かれた黄色いうわえわとしたものだ。

しかも黄色だけで塗られておらず、あえて矢っぽが赤いというのも何かの印のように思える。サーモグラフのように、画面の温度を色で表しているのか。考えれば考えるほど、頭の中が真っ白になっていく現象に陥ってしまう。

⑨ わからないから考えて、自分なりの考察を並べて、いや、それは無いだろうなんて自問自答していくのが、おもしろい。また、作者が、私達に自由な発想を求めているのなら、それはそれでうまくいっていると思うが、もし作者本人が、本当に伝えたいことがあったのに鑑賞者にはうまく伝わらず、おそらく私のような人に、自分の意図とは異なる捉え方で、違う解釈で批判されているというのも、ますますおもしろくて笑えてくる。私ができることとしては、平面でしかできない表現をこの絵はしていて、何かの意図はあるが、こちらには伝わらないということぐらいだ。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名  
 4217 明城理紗子

タイトル 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
 「記憶の家」

全体は黄色を全面に押し出したような明るい印象を受けるが、どこか悲しくなるような暗い雰囲気を感じる。それがこの絵から感じる魅力的な違和感だ。作者は何故このような構図にしたのだろう。広い畑なのか草原なのか、その上に一人、こちらには背を向けて奥にある家を見ている。歳は2,30代の女性が描かれている。私はこの絵を見た瞬間、まるで映画のワンシーンを見ていたかのように、この絵から長いストーリーを連想してしまったのだ。

近くて遠いという矛盾した言葉がこの絵から感じられる。女性と家との距離はそれほど遠くない。しかし、その歩いて数分ほどしかなさそうな距離の間には、心理的にとても離れた関係性があるように思われる。家が建っている土地と彼女のいる土地の色が異なっている。あえて色を変えているのだろうか。それから、彼女はついさきまでそこで寝ていて、目が覚めたらそこにいたかのような風貌だ。後ろ姿のためその表情もうかがえない。それが見る人の視線を彼女へと惹きつける。また彼女の髪がなびいていることから、風も吹いていることが推測される。なんだろう、この寂しい雰囲気は、涼しいというよりは寒そうで、晴れてはいるが青空でもないような空気が、私は、この女性があの家に関連する何か、誰かに「置いていかれた」、「近づきたいのに近づけない」といった時に人が感じる寂しさを抱いているように思えた。

見る限り、家の前は車が通れるように、柱を立てるなどして整地してある。このことから、あの家には人が住んでいるのか、いたのかしたのだろう。彼女はそれを見つめて何を思うのか。今思いついたことだが、もしかしたら、彼女はもうこの世界にいない人物なのかもしれない。何だか、彼女自身も大地と似たような色をしていて、彼女の姿も少し消したものだとしても、この絵が成立しうたからだ。だから、女性は思い残すことがあつて再びこの地に降りたのだとも私は考えられた。そう思うと、最初に見た時よりどこか神秘的で、さらに不思議な作品に感じられる。

この作品に私がタイトルをつけるとしたら、「記憶の家」だろうか。私の考察が的外れで、かつこの絵を本当に味わうことができなかつたとしても、今の時点で、私はとても満足している。自分の考察だけで満足しているということでもないが、本意を知らずとも、ここまで絵を楽しめるということがわかつたからだ。私はこのような、意味深でストーリー性のある作品が好きなので、何かを暗示させるような人物と背景の構成がとても素晴らしいと思った。

① 私の お気に入り作品ギャラリーに是非とも加えたい一枚だ。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A B C D

 1点提出  
 2点提出

学生番号

氏名

4218

田村 奈々

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

悲しむ人

これは抽象化された人物像だと思う。悲しいはな憎みを感じるような横顔に、目からはまつげのようなものが伸びている。体の向かって右側には赤い砂時計のようなものが入っている。または位置的にも心臓や内臓なのかもしれない。口からは黄色い舌が伸びており、先端は赤くなっている。私は初めて見たとき、これは何だろうと思った。背景には冷たい色が使われおり、形もどこか幾何学的で、全体的に無機質な感じがする。しかし目から伸びているものは植物的なフォルムをしており、冷たい空気の中にも有機物の存在を感じる不思議な絵である。一体この絵の人物は何を考えているのだろう。背景の氷色や画面全体の落ちついたトーン、そして少しづつあがった目尻からはこの人物のどこか批判的な感情が感じとれる。そう見ていくと、口から出ている舌はこの人のそういった負の感情がただ漏れてしまっているようにも思える。彩度の低い画面の中で、この舌と体の内部だけが鮮やかな色を持っていて、構成としてもバランスがとれている。絵全体の造形は陰影もなく、現実のものを忠実に再現するようなものではなく、平面的でとてもシンプルだ。しかしそのシンプルの中で、面と面の境目といった複の魅力的な曲線に気がつく。△と△と△としていっているようで、よく考えられた線なんだろうと、フォルムを見ると感じることができる。先ほど言ったように「植物的」なこの線が、無機質で、一見すると近寄りかたい絵にも、どこか感情移入させる寄地を生みだしているのだと思う。



## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4218

田村奈々

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

クリスティーナの世界

私はこの絵を見たとき、~~は~~ ~~然~~とした空虚感のようなものを感じた。どこまでも広がる草原に女性がうちひがれたように倒れている。その視線の先には一軒の家があり、それが彼女の家なのか、はたまた別の人物の家なのかもわからない。ただ彼女は永遠にその家にはたどりつけないような虚しさや疲労感を感じる。またこの描写力がその気持ちをより強調させる。特に草原の描写が、まるで風が見えるかのおにすさまじく、それはさらに女性と家との距離を遠ざけていくのだ。黄みがかった落ちついた画面の色調は美しくどこか哀愁をただよわせる。描写力、色彩といったこの絵のすべての要素が、顔の見えない女性に絶望の表情を思わせるのだ。調べてみるとこの絵はワイエスの『クリスティーナの世界』という。

作品らしい。タイトルをきいてこの絵の世界はクリスティーナという名の手前の女性の頭の中の世界なのだろうかと思った。精神面で強い力を感じられる絵だからだ。しかし、よくよく調べてみるとこのクリスティーナという女性は実際におり、足を悪くしてしまいが車椅子はつかわずに家族の墓まいりに行ったその帰路の絵だということがわかった。私は、最初にこの絵から受けた感想と、実際の内容とがまったく違うことにおどろいた。その話をきくと、この絵の見方はまったくちがったものになってくる。絶望していると思った彼女の後ろ姿がやりとげた女性の達成感あふれるものに見える。

しかし、前向きな解釈を知ってこの絵を見ても、やはり最初の悲しいイメージはぬぐえない。不思議な絵だと実感した。

■ 美術感想文

提出日：7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4219 氏名  
 本多 優衣

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。  
 「向こう」(自分で考えたタイトル)

この絵を見たのは初めてである。その為、独自解釈になってまいりますので  
 ご了承願います。私がこの絵にタイトルを付けるとおならば、「向こう」と  
 つけるだろう。その理由は、絵の画面上に一人の少女が草原にいて、見つめる先の  
 向こうには、2軒の家があるからである。更に絵を観察してみるとその向こうにある  
 家の周りに生えている草の色が他の場所の草の色と違い、明るくなっている。  
 空は灰色で曇りである。このことから私は、1つの物語を作ってみた。

↑  
連想  
の

昔から足が不自由な少女が日光浴をするため、草原で座り込んでいると、晴れ渡って  
 いた空が突然曇りだし、2軒の家が現れた。少女は、現れた家に驚き、行ってみたい  
 と思った。しかし、足が動かせないため、一人で歩くことは不可能だった。そのことから  
 少女は何をおにも足のせいにして、努力しようとしなかった。しかし何故かこのとき  
 だけは、「足が不自由だからと言って諦めたくない」と思い、意を決して、体を少し這いずらせ  
 立とうという姿勢で前に進み始めたのだ。家の周りに生えていた草が明るかったのは、  
 神が「ここにおいて」と言っていたからなのではないだろうか。そしてその神は再び  
 ↓少女が歩けるようにお為に与えた1つの試練だったのではないのか...

という物語である。  
 この解釈があっているとおならば、作者は観ている人々に投げかけたかった  
 メッセージは「諦めるな、何度でも挑戦して為しとげろ」というものではないのか  
 と思った。そこで無理だと決めつけてしまえば、為しとげなければならぬものから  
 逃げ続けてしまうと思ったのではないだろうか。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図 (A) B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4219 氏名  
 本多 優衣

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。  
 ヘビースモーカー(自分で考えたタイトル)

絵の特徴を挙げるとおならば、人間かも怪しい生物が体から何か妙なものを出し、体の中身は透けて臓器系の何かが見える。更に、目からは葉、ぱのような物が飛び出るというとても不気味な絵だと思った。これは、いったい何を示しているのか…。自分も時々わけのわからない抽象画(羊具象とも言われる)を描くことがあるが、この絵画ほど意味の分からないものは初めてである。とりあえず、憶測で思ったことを書き綴ってみることとする。

まず、私がこの絵画にタイトルを付けるとおならば、「ヘビースモーカー」とつけるだろう。この描かれている人物が、まさにそうだと言うかのような状況だからである。

その証拠に臓器(おそらく肺?)と煙草(葉巻?)らしきものが描かれている。煙草は健康な赤い肺をいつか真黒に染めて、肺がんを起す要因となるものである。そして、目はその煙草によてぎらついているように見える。更に背景は煙草の煙によてくあんているのではないのかと推測している。作者はきっと、この絵の観賞者の中の喫煙者に「今すぐ禁煙せよ。さもなければ、いずれ病魔に侵かされ苦しむことになるだろう」と警告する為に描いたのではなかろうか。もしくは単純に作者自身が「私はヘビースモーカーである!」とアピールする為に描いたものなのではないかと思った。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日月

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4220

木谷 詩穂子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「知らない世界」

倒れている人がいて、遠くに数件の家がある。辺りは草原で周りに他に誰もいない。素直に淋しい印象を受けるのは私だけに限ったことではないだろう。人物の表情の表小背は見えないが見えないからこそ、想像ができるおもしろさがある。

草原の色が、変わる場所がある。私はこれが一種の大きな境界線に見える。こちらの草は暗いトーンであるが、実はこれが現実の世界であり、明るいトーンの草は別の世界なのである。女の人が目を覚ますとしたのはこの場所で、何が起きたのかおからず止まっている。自分がこの状況であつたらとりあえず人を探しに家のある方向へ歩き出すだろう。それがワナなのである。境界の内側に入るともうこちらの世界にもどることはできず、いわば三途の川みたいなものだ。

見えない表情、寝て起き上がったような姿勢、一部だけ明るい草... この系会には不自然なところが多いように私は感じる。

そして、この系会は全体的にみじりがかっている。そこがさらに変な感じを強調しているのであろう。空がカラ。と暗れておらず、どこかどんよりと重たい。この系会における空の占める面積はとても小さいが、空の表情というのは人の表情と同じくらい大切な表情だと私は思う。空が重いから、人の表情そして心小背を日丸晴れとはしていないだろうと思うのだ。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日月

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4220

新谷 詩穂子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「パイプを吸う男」

A

とても抽象的な系会だ。三口の作品らしい作品である。

バックの青色から、冬のつめたい印象を受ける。ベタ塗りではなく、まだらなも凍しさを感<sup>じ</sup>る。また、表情も無表情なのであるが、目らしきところから黒いものがでてい<sup>る</sup>。それが私には涙に見えるのだ。目の円の内側が青く水がにじんだ様になっているため余計にそう感<sup>じ</sup>る。

このようにつめたい印象を強く受けるのに対し、人らしきもののちよ<sup>う</sup>ど体の内臓のあたりが真。赤と熱い。上の赤いものが心臓で下のが胃だろうか。表面上は冷めているのに、内に秘めたものは非常に熱い。ベタ塗りな分、熱さが強く感じられる。

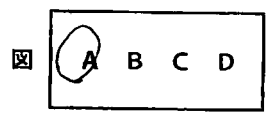
涙の先につながりそうに存在しているのはたばこの煙のようにふくらみ上がった黄色い物体だ。これは何であろうか。形からしてアラジンが魔法のランプから出てきたようである。泣いている人の前に突然妖精が現れた。人は涙でぬれた目をま<sup>ま</sup>るにして驚いている。そんなものを私は感<sup>じ</sup>た。黄色いことでこの系会における存在感が大きく、人らしきものに対して、サイズの割りに負けていない。そして、あたたかさがある。

こう思って見ているとこの黄色い妖精と人が会話をしているように見え<sup>て</sup>くる。内に秘めた熱いものの存在を知っているから、あきらめず頑張り続けたいと妖精はいう。人は妖精を乗<sup>り</sup>せし、手を伸ばすように妖精に向かって涙の先が伸びているのだ。冷たい中のあたたかさや熱さ。そういったものをこの作品から私は感<sup>じ</sup>る。



■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名  
 4222 小林 聖実

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
 ハイフンを吸う男

この絵を初めにみた時、ものすごく明るい色だという印象を受けた。明度の高い色の組み合わせのせいなのか何度みても飽きのこないとてもフレッシュで例えるなら毎日めくるカレンダーのような、真新しいマカがある。この絵の中央に存在する白いものは人なのか何なのか不思議である。

目のようなものが、人の形をした物体にあるところを見ると、これは、確かに人なのかもしれないと思う。元来、人間は本能的に人を見る時はまが目をみるらしい。私もこの絵の白いものに目のようなものをみた。くつきりとしていて、まるで目覚めの後の一杯のコーヒーを飲んだ後のようだ。この白いものが人であると定義して、私はこの絵が何を表しているのか考えた。まが目の部分のところからでている席のようなものは目と関連しているのだろうか率直に考え、まがもと解釈し黄色い煙のようなものは、場所がかなりずれているか髪のもだと考えた。ここまできて、なるほどこれは人を抽象したものなのだなと思った。

その後、私は三口という作者名のヒントを得て作品を探した。タイトルは「ハイフンを吸う男」なるほど、いわれてみればそうかもしれないと納得した。ただ煙の上にある、赤い点は何なのか私はまた考えました。暖かい空気は上に登る、ということはいイメージを一番熱が高いであろう

場所に赤いという色を使い表したのではないかと解釈した。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月 7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4222

小林聖実

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

青静

ハッキリみて草原に佇む少女を描いた絵なの  
かと思っただが、じっくりと糸読み解いていくと  
少女は佇むのではなく、何かに置いて行かれて  
しまったような喪失感がある。行って後ろは  
振り返ることはない背中に、それこそ哀愁感が  
漂っている、ほとんど何も無い草原だからこそ  
少女のちっぽけさが更に際立っているのだ。

色相の幅は、あまりないように感じられる、  
だからこそ、みているものの気持ち様が、様々な  
色に惑わされることよく統一される気がする。

少女の色といえど、快活な色がみられず、草原の  
心が深みに落ちてしまう様な色と同化している  
印象をうける。まるで草原に少女が溶け込んで  
いるかのように、落ち着いた感じ、動と静で  
表すなら青静だろう。しかしこの草原は、どうにも  
風がさわやかに吹いている気がしたのだ。

農場や田舎のほのぼのとした雰囲気かといえど  
そうではなく、広大な土地の中で、どこか物悲しく  
少女のように家屋が2、3ホロンと建っており、  
収穫を終え、むき出しになったような地面が  
見受けられるのだ。そしてそれをみつめる少女は  
もしかしたら置いて行かれたのではなく、自分の  
意思で、ここまで辿り着いたのかもしれない、はたまた  
あの家に住もう少女なのかもしれないと様々な思いを  
巡らすことのできる作品だと思った。



■ 美術感想文

提出日: 7月 7日

図 (A) B C D

1点提出  
 2点提出

学生番号 4223 氏名 嶋崎陽

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
うるさい世界

静かな絵だ。でも周りの音がとてうるさい絵だ。

自分の声すらきこえなくなるといふほど周りがうるさい絵だ。

絵自体は静かなのに不思議だ。あまじい。

音の所に描きこむのが人物の横顔だ。線が二つある点が目だ。こちとこちと側をじっと見ていよう。でもどこも見ていない。

世界を三歩、いや、もう少し遠くから見ていような視線だ。

だからこの絵は静かで周りはうるさいのだ。

背景の青は、こちらが濃い所とこちらが薄い所がある、人物の白いもそうだ。

そのムラがある感じが、霧にまつまわってうるさい静かさがあある。

反対に赤や黄色は青と白とまざることなくくっきりと別けて描かれている。

この赤や黄色がうるさくかやかせと感々している。この赤と黄がとていい。

この人物は霧の中、あつは形が不確かな人のバヤ、自分自身には...

どらうさうととてさないうるさい感情に困まれている。その霧と一体化

してしまおうと、霧のせいで周りが見えない。でも霧の向こう側には

形がしっかりした、数えきれないほどの何かがある。せわいである。人の声、車音

工場音、耳ざわりの音楽、とにかく見えないのにうるさい。そんな印象を受けた。

この周りがうるさいけれども何も見えないこの感覚に共感する。

まるで自分がこの世界にいらるような感じだ。

この絵を見るとき中にあいてまわって、この絵の人物と向い合って

霧の中に入ると騒音にかきまわっていらるような感覚になった。

なんだか、周りはとてうるさいのに、居心地がいい。周りがたんなりと

目にもとめてはなく、人目と気にする必要がなかった。

作者である三浦アツシは、時間をかけてこの作品を描き上げたのだ。

自分自身と向き合いたがら描いたのだ。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図 A B C D

1点提出  
 2点提出

学生番号 4223 氏名 嶋崎陽

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
タイトル フリスターの世界

真ん中の建物が不自然な気がする。そこだけこども気になった。  
 悪くて良い気がする。モシロ色が、とても緑だ。実物を  
 みていろいろの印刷のせいなのかもしれないが、女性のうでや  
 生の方の草の色が黄緑でまぶしい。でも全体の統一感がある、良いと思う。  
 この女性の姿から伝わってくる雰囲気がとても良い。  
 少し乱れた髪が風になびいて、渡っているような印象がある  
 だが、身の方や体の動きをみてみると左手は前に出て  
 もらうくらい前に手をつらと、手をのびているように見える。  
 右手で地面で、体を支え、上半身をグイッと今にも力強く押しやうに  
 見える。この体の動きから見ると、何か、例えば丘の上にある  
 家に向っている。顔はみえないが視線は丘の上の家(石の)に集中  
 しているように思う。何か、その家に行かなければと必死になり理由が  
 あるのかもしれない。家に何うやら立上らうとすればいいのでは...?  
 足に力が入っているのだ。上半身、腰かお尻までグイッと  
 家の方を向いて、足は投げたかめたままなのか。足が不自由  
 なのか...? そうだとすると必死に家に向かおうとするのも納得が  
 いく。足をききずって丘をのぼるのは大変だ。うん。  
 でも、あきどめは全く感じず、力強く生きていこうに思える。  
 女性が自前にいるが背景である家にもポイントが合っている。  
 描き込まれているように見える。草にも二輪の車、馬車がか  
 通った道も描かれてる。草が平面的だ、特に女性のまわりが。  
 べつとぼったうだ。  
 じっとみてみると、この絵の中は風がふいているようにだけけど、  
 何も音がしてこない。においもない。ただ女性の力強さと、  
 地面の草や建物がから出てくる寂しさが感じられる。  
 草が風にゆれる音がするらしい。

袁..

感想文を書いた後に調べてみた... 9月には始めに言っていた。

(ネットの意見の影響を受けてもうごめんだから、後から調べて)

「クリスティーの世界」が描かれた当時、この女性は50歳だったらしい。

かっこよかった。若い女性をモデルにしていると思っていた。

作者の中では、若いままだったのかもしれない。本当にかっこよかった。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4224

吉藤 郁子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

パイプを吸う男

とても抽象的ではあるが、横を向いた人物の胸から上が描かれているように見える。真ん中の細い部分を首として、上が頭、下が胸である。頭には目のようなものが一つだけ描かれていて、左側に鼻のような突起があるので、横顔だと思われる。胸に描かれた空洞の部分は心臓のようでもあるが、どちらかといえばその形から、私には肺のように見えた。

顔からは何か木の葉のようなものが出ていて、顔の横には、黄色いもやもやとしたものが描かれている。それは、ちょうど口のあたりから、煙をはき出しているように見える。

私はこの絵を、タバコを吸う人、または、薬物(ハーブのようなもの)を吸う人ではないかと解釈した。木の葉のようなものは、タバコの葉、または薬物であるように見えた。煙の色が黄色と赤であるのは、タバコにはよ、薬物にせよ健康に悪いものであるの、毒らしい色で描いたのではないかと思う。肺と思われる部分が赤く描かれているのも、同じ理由ではないだろうか。

実は、ここまでの解釈を考えた後で、この作品の本当のタイトルを知ってしまった。「パイプを吸う男」... 驚いたことに、私の解釈はおおよそ正解であつたらしい。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月 7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4224

吉藤 郁子

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

孤独

白い服をきた女性が草原に座り、ふり返るように体をひねって、丘の先の家を見ている。とてもさわやかなシチュエーションの絵だが、全体の色合いが黄色がかったり、少し色あせたような色になっていて、どこかさみしい気持ちになる。昔来たことのある田舎に大人になってから再び訪れたような、なつかしいような、少しさびしいような気持ちである。

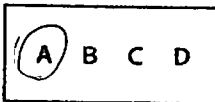
この絵では、女性は後ろを向いていて、その表情までは窺えないが、逆にそれがこの絵のよさだと私は考える。女性の表情が見えてしまったり、絵から感じ取れるものが限られてしまう。見手者の想像力の邪魔をしてしまう。作者も、見手者の邪魔をせず、自由に想像してもらいたくおぼせと女性の顔を見せない構図にしたのではないだろうか。絵は、見手側の解釈によつて、作者すら考えつかない様々なストーリーを持つ可能性があるのだ。

私は、この絵を見ると、先にモヤッとした、なつかしさやさびしさの他に、少しの心もとなさや不安を感じる。それはなぜか。うと考えると、この絵の中の風景は、とても広大でひらけた場所であるのに、女性が一人で座っているからか。奥に描かれた家の周りに誰かがいれば、このようには感じなかったと思うが、女性が振り返った先に、誰もいる気配がないこと。まるで女性が広い世界に一人ぼっちであるような気分になるのである。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月7日

図

 1点提出 2点提出

学生番号 4225 氏名 会田 葉南美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

ため息

一瞬、何が描かれているか分からない不思議な絵だと思った。人間のようにも見えたし鳥のようにも見えたからだ。また宇宙人にも見え、色々想像させられた。それは例えるなら、幼い子どもが描いた、ものがはっきりしない絵であるように思う。はっきりすべての部分が細かく描かれているわけではなく、いったいこれは何なのだろうというワクワクした感情を私に抱かせた。子どもが描いたいたずらがきのようにも感じ、おもしろいと思った。背景の青さはどんよりとした感じがする。色々な色が混じっていて、様々な感情があらわれているごちゃごちゃした印象を受けた。人間らしき私たちには、大きい目や赤い内臓のようなもの、首、頭などが描かれている。そしてなにやら黄色い空気のようなものが口のあたりから出ている。まるでため息のようだと思った。体は白く不健康そうな印象がした。しかし目はいきいきとした感じを覚えた。大きく目を見開き、こっちをじっと見ている。それは、にやにやしているようにも感じるし、何かを訴えかけようような目にも見える。他の部位は具体的にではないが、目だけは妙に人間らしい。さらに、顔は横向きで、体は正面を向いているなど、つじつまが合っていないところがある。しかしそういう点がどんよりとした重い空気を表現するのにちょうどいい。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4225 氏名 会田 葉南美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
前へ

この絵を最初見たとき、描かれている女性から生命力という印象を抱いた。というよりも力強く生きている女性というイメージを受けたというほうが正しいかもしれない。女性は遠くにある家の方をまっすぐ見て、前にグッと手を伸ばしている。左腕は体を支えるというより手を前へ前へ伸ばしているように見える。家までの道のりは光に照らされ、少女が前に踏み出そうとしている印象を強く感じた。女性の体自体はすっきり重さを感じないような感じがした。その姿はなにかにしがみついているような必死さを感じた。細い右腕には力が入っていてグッと体を支えている。女性の体は標準的な体型より全体的に細いような印象を受けた。周りの草原の草の色に比べて女性の肌や衣服の色は淡く、女性の脆弱な部分を強調しているように思えた。この作品は落ちついた色合いで、私はこの雰囲気が好きだと思った。また最初に浮かんだイメージも一つある。それは、孤独寂しげという雰囲気である。まわりに何も無い中、女性が一人草原の中にいるという場面それだけで寂しい感じがする。加えて女性の後ろ姿からは孤独さ、弱さが感じられた。近いようで近くない家までの距離が、より女性の寂しい感じが表われているなと思った。腕に力が入っているが、何となく頼りない印象を抱いた。私はこの作品を初めて見たのでこの絵にどんな意図があるのか分からない。しかし説明しすぎていなく、鑑賞者が自由に発想できるようにしているのがいいなと思った。

図

A (B) C D

 1点提出  
 2点提出

学生番号 4226 氏名

中村 小凌

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。

家

横すわりの女性がいる。つめたい風が吹いていて彼女の髪の毛をなびかせている。彼女は黒い家を見つめているというか、黒い家にあがっているように見える。一生懸命に家の方向に行こうとしている。行きたいけどいけない。そして少しあきらめているようにも見える。家は、暗くて重苦しい雰囲気を出している。なぜ彼女は、その家を見ているのか、その家に行きたいのか……。

丘一面に芝生が生えていて全体的に緑がかかった絵である。さみしい雰囲気でつめたい感じがある。

私は、美術・デザイン系の学生であるにも関わらず、ほとんど絵を描かない。ソートのほしの落書きくらいしか描かないのでどの絵がどのくらいの技術があってすごいのかなどは全くわからないが、この絵を描くのはとても大変そうだと思う。また、リアリティを感じます。芝生の一本一本がていねいに描かれていて本当に草なのである。一本ごとに色が変わっていてグラデーションがきれいだと思う。

向こう側にある黒い家について私は勝手に考えてみた。すると、はじめて家を見たときは、暗くてあまり良い家には見えなかったが、だんだんと明るくものを感じるようになった。楽しい思い出のようなものがあの家にはつまっているのではなかろうか。彼女はそのを求めているのではなかろうかと勝手に考えた。

彼女は私たちに背を向けている。彼女はどんな表情をしているのだろうか。泣いているのか、ほっとしているのか、苦しんでいるのか、もしくは笑っているのかもしれない。いかにしても、彼女は求めていると思う。家の中のなにかを……。





学生番号 4226 氏名

中村 小麦

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

タイトル

見える

ぼんやりと青い画面に白い横顔の人が何かを見つめている。その人は  
目を見開いて、恐怖を感じているように見える。赤の後にある  
何かにおびえているように感じる。だから思わず私も自分の  
背後の何かに恐怖を感じてしまう。心臓がギョッとめくれ  
られる。

しかし、この絵から感じるのは恐ろしいというイメージだけではなく  
黄色で描かれた三日月のようなものに、痺れ感を感じる。三日月に  
そっと寄りそわれて、見守られているような... 包まれているよう  
な... 一旦その黄色を見て心を落ちつかせることができる。  
そしてその人は、真白ではあるが、しっかりと赤い生  
た臓器がある。心臓だろうか。かなり鼓動を持っている。こ  
んなに白かったら普通の人間であつたらとくに死んでいるだろう。  
死後数日たつていてもおぬしくなれないほどだ。と思う。しかし、その  
人は、生きていて、見つめている。

この絵は、私の中でほとんども一言で表すことができない。とても  
未熟であるので消化しきれない。どちらかというと恐いほどという  
マヤカしたイメージと、痺れなどのプラスのイメージを両方感じてしま  
った。本当に複雑だ。

青い中でたまたま人は、恐怖と、力強さを感じさせる。黄色と  
赤の複雑な感情... その人に見えているものは私には見え  
ない。それがとても残念である。その人の顔を、そのよ  
うにせよ、見を見開かせよ何かを、私も恐いもの見たよと  
いうもので、見てみたい。

図

A ③ C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4227

上野 雅人

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

捨てられた女

画面に写っているものが少なく、全体的に寂しい感じ。

色味がなく冷たい印象を受けた。

毒々しい感じで見ていて気持ちのいいものではない。

手前の女性が奥の家を見わたしているが、それから喪失感のようなものを感じた。

女性の髪がなびいていることから、この広い草原を冷たい風が左から右に吹いているように見える。

女性の髪の毛や服装が粗末で貧乏な人なのかと感じた。

右上に車の通った後があり、それが真新しい感じで、まさきそこを車が通り過ぎたのかなと思った。

敷地の境目から女性が外に出されている。

何かに見放され隔離されているんだ、とこのことを強調しているようにも感じた。

女性の下半身にはほとんど力が感じられない。

奥にうっっている家から放り出され力を失っていたところ、いつものように生活

していた車の車が帰ってきて、もう一度お遣いしてもらえるように怒願するも

無残にも自分の横を通り過ぎて家に帰っていく。と勝手に考えた

女性は這うようにして最後の力を振り絞るも失敗に終わり絶望しているようにも見える。風になびいてしまうほど衰弱しかつてしまっているようにも感じる。

どうして画面が少し傾いているのだろうか

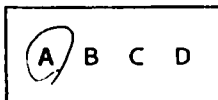
ここは小高い丘なのだろうか

作者自身、何かに見放され隔離されてしまって寂しい、冷たい気持ちを表現したかったのでは…。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4228

高岡 直

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

ジョアン・ミロ 「パイプを吸う男」

多分人物像だと思う。しかし、ただ人物を描きたくて描いたのかどうかはわからない。ミロさんの作品はだいたいで象徴的。どこもどこもこどい印象をうけるが、この絵はとてモダンだ。タイトルからヒントをもらって見ると、人、パイプ、煙の3つの物しか描かれていない。

人らしき白い部分には、鼻を見とれず、目らしき所からはパイプの吹き口が伸びていて、胸の辺りの赤いものが何かかたはまりとはわかんない。

パイプの形も葉っぱにしか見えなくて、煙も色のせい？ マヨネーズにしか見えなくて、私の中の常識と矛盾している。だから私は抽象画が好きだ。

自分の考えに絶対の自信があるとはわかんない、むしろ身振も平穩を失って、どうもわかんない。

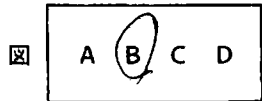
色合いにも統一性がある。赤や黄色や白はハッキリといて、うらがひがない。背景はもやもやとした灰色の青の青の色だ。黒い細い線のおかげで、パイプとして、また背景のせいでもやもやとした印象もうける。

人物に注目すると、白く首が細い。細身の西洋人のイメージが浮かぶ。あまり健康ではなさそうだ。パイプから煙が出るといことは、この人は今息を吐いているのだから、リラックスしている状態なのだが、背筋が少しのけぞっている。目はガン開いて、胸の辺りの、心臓を表しているのだろうか。石時計のような形の何かは、燃えるように赤い。これによって、色合いのせい？ 戸とニューハーフの雰囲気がもたせられている。

私的な感情を丸出しにするから、わけがわかんない。はまりしてはしれない所ばかりで、部屋にも飾りたてない。買おうだかと思わぬ。これなのに、自分には絶対に描けないものだから、たい物か気がして、悔しい。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4228	高岡 香

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。  
 アンドロイド: ワイエス「クリステナの世界」

一目見た時に、暗いと思った。風景画の硬やかな印象も、人物画の強い主張もなく、何か悲しい感じがした。よく見ると、分岐点のどこかから湧いてくる。この風景なのか、何時頃なのか、この女性はどうしてこの状態なのか、それは作者にしか分からないところだが勝手に想像してやる。私が思ったのは、ナチス・ドイツによる迫害のことである。多分、イングリッド・バーグマンという映画に出てきたユダヤ人の一家が住んでいた家の辺りの風景に、よく似ているからだが、この女性はナチスに見つかり、逃げようとして途中で転んでしまったか、まよめたかして地面に倒れ込み、家族の住む家を見つめている、というようなストーリーが浮かんで来た。恐らくその後彼女は撃たれ、家族に逃げようと言えなかったことを心残りに死んでいく。

私はこの絵がわりと好きだ。11月12日、色相も統一されていて、元気で明るすぎる絵の調子に押し付けがましいところもない。一度も見たことのない絵だったため、調べると、「クリステナの世界」というタイトルだと分かった。これは先に書いた疑問は一つも解決しないが、作者の名前からしてドイツ系ではあるのだろう。ナチスとの関係が起った。思い過ぎにはちがいない。

恐らくこの女性がクリステナなのだろう。彼女の左手は家の方向を向いているが、足にはかたまり。私は改めて、この絵は夢の中の風景では無いかと考えた。良い夢では無い。私もたまに見るが、いくら歩いても走っても、行きたい方向へ行かない。目的地が見えないのに「少し近づけよう」と疲れていく、というような嫌な夢だ。こんな殺風景な閉鎖した風情が彼女の世界の全てだから、現実には受け入れられない。せめて悪夢の中だということにしておいてあげたい。

■ 美術感想文

提出日：7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4229 氏名

斉藤 あい

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

虚勢をばる人物の痛みと罪悪感

この絵はおおざらには、赤、黄、青、黒、白で構成されている。白の部分は人物の頭先から胸あたりまでを横から見た図のように見える。黒い部分は目、赤い部分は内臓、黄色の部分は何か口から吹き出したものに見える。

絵の中で最初に注目させられるのは「目」の部分である。この部分はその周りの白い部分、つまり「顔」の部分との比率を考えるととても大きい。何か強い感情を露わにしているようだ。そして「目」からは、一本の黒い線が出ている。私にはこれが涙に見える。なんとなく少し、罪悪感のようなものがうかがえる。何か後悔しているような「目」である。

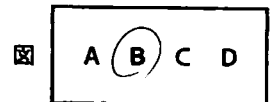
黄色の部分は描かれた人型の「口」のあたりから吹き出し、「顔」を覆うように広がっている。まるで仮面のようなものである。そして思えばこの部分のシルエットを改めて見ると、右側の輪郭は人の横顔の前半分に見えてくる。白で描かれた人物が、仏よりの印象であるのに対し、黄色部分がある横顔は彫りが深く、立派で頑丈そうといった印象を受ける。また白の部分は青の背景の部分との境界が曖昧なのに対し、黄色の部分は境界がはっきりとわかるように描かれている。この黄色。「仮面」の部分は、白い人物の言葉から生まれた見栄のようなものではないだろうか。

また赤い部分は痛みを感じさせる。それは体の内側に響くような強い痛みである。この白い人物は虚勢をばる自分自身に対し、罪悪感を共に痛みで感じているのではないだろうか。私はこの赤い部分が一番好きだ。一色だけなのに、そこに痛みにつながる様々な感情が溶け込んでいるように思う。全体的に見ても、この絵はとてもシンポルである。しかしシンポルであるが故に、複数の事象や感情を連想させるのではないかと感じる。

そして、シンポルではあるが、そのあまり色を多く使っている、むしろ見せるかに重点がおかれているように思う。赤や黄と比べると背景の青はあまり統一して塗られておらず、複雑な印象を受けると共に、その他の色の部分も強調されているように見える。ここには注目すべきかが絵の描き方には、しっかりと示されている。

■ 美術感想文

提出日: 7 月 7 日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4229. 氏名 斎藤 あま

作品の題名が読めた人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
 タイトル 郷愁

静かな絵である。西面の大半が草原で、空の色もあまり明るくない。糸田がく  
 描かされた草は生気がないわけではないが、みずみずしいとか、生き生きしている  
という程ではない。右上の家は大きく立派な建物のようだが、その色合いがさか  
 配置された位置から、むしろ「侘しい」という表現が相応しい気がする。  
 天気が曇りの日の静かな心地良さ感じさせる風景である。草を食べる牛や  
 ヤギなどが一緒に描かされていた。「のどかな」という形容も似合っている。  
 しかしこの絵に描かれているのはそういった家畜ではなく一人の人物で、しかも  
 何か並々たるぬもを感じさせるポーズをしている。一見背景との違和感を  
 感じる。しかし、この違和感こそこの絵の重要なポイントなのではないだろうか。  
 描かれた人物の存在感も生み出す効果があるように思える。さらに、人物と建物との  
 間に絵に直接描かれた距離感以上の隔たりを感じさせる。この隔たりは、草原の  
 草、色が途中から明瞭に違ってくる感じもある。私は、この人物がいる暗い色の  
 方。草原と、建物がいる明るい色の方。草原は、実は直接つながっているわけではなくて、  
 建物の方向人物が見た一種のまぼろしなのではないか、と思う。この人物は、髪が長くて  
 体つき、手足、白くて細いことから、10代後半くらいの少女に見える。少女は後ろ姿で  
 見ているが、その視線、先にあるのは建物だ。左手も真直ぐに建物の方向に向いていて、  
 必死に建物の方向に向かおうとしている。ではこの建物は少女にとってどんなものなの  
 だろうか。私は、この建物がいる明るい草原は少女の故郷なのではないかと思  
 う。おそらく少女は今故郷と離れた場所で生活していて、ふとしたときに自分の住んでいた  
 場所がどうしても恋しくなるのだ。倒れ込んでいるから、今現在の身の回りで  
 何か辛いことがあったのかも知れない。その苦しみもあって、この少女は強く  
 故郷に思いをはせているようである。またこの絵はとてもリアルに描かれていて、  
 質感などがよくわかる。少女にも人間味が強く感じられ、感情が伝わりやすい。  
 その点からみても、非常に美しい絵だと私は思う。また、やはりこの静かな  
空気を感じさせる色合いが、私はとても好きである。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図 (A) B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4230

氏名 押切 彩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を委縮する。

内と外

私はこの絵画の作者を知らない。初めて見たときは、何が描かれているのかよくわからなかった。見ていると白い部分が、人の横顔に見えてきたのだ。黒いひびつな円は目のように見える。しかし、下にみるにつれて、人間ではなく鳥のようにも見えてくるのだ。左側に描かれた黄色いものはなんだろう。白い部分を人間だと仮定して見ると口から出た何かなのだろうか。最初は形からして、ためいきのように見えた。だが、黄色だ。黄色というのは前向きな時に使うイメージがある。ためいきなら黄色を使おうとは思わないはずだ。よく見ると黄いろいものの上になんだけ赤色が顔を出している。そして、その先端は鋭っている。赤色というのは、激しい感情に使うイメージがある。見返してみると人間(仮定)の下の方にも赤色が使われていた。それは白色に囲まれている。白色に囲まれた部分には、背景と同じ色のものも見える。これは位置からして、この人間(仮定)の心を表しているのではないのか。そう考えるとためいきだといっていたものは、赤色の上に黄色がのっている、本当の気持ちをして、違う気持ちを外に出しているのではないかと私は思うようになった。そうすると背景に使われている青いまぼろなのは、そんな状態に対しての憂鬱を表現しているようにとらえられる。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月 7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4230

氏名

押切 彩

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

ひとり

この絵を見たとき、まづ初めに目に止まるのは、この絵の中で一番手前に描かれている座わりこんでいる女性だ"と思う。私はこの手前に描かれた女性を見て、とても写実的な絵画だ"なと思った。しかし順に奥に描かれている家を見るとそうではなかった。手前に描かれた女性が写実的で立体感を感じるのに対し、奥に描かれた家は平面的なものに強く感じる。そうやって見ていると周りにはえている草もなぜだ"ろうか。妙に平面的に感じるのだ"。手前に描かれている女性の髪の毛は風になびいているようだ"が周りにはえている草は風になびくことなくまっすぐ"にはえている。この手前に描かれている女性一人が、この絵画の中では異物に感じてしまう。この女性にとっては厳しい世界なのだ"。絵画全体の色は暗く、どんよりとしている。重くどろどろとしたような印象だ"。私はこの絵画から悲しみを感じるような気がした。しかし、手前に描かれた女性のポーズ"から何かの必死さも感じる。この手前の女性は右腕を前に出してからだ"をねじり、奥に描かれた家の方に必死に向いている。奥に描かれた家はもしかすると手前の女性の家なのかもしれない。家というのは誰にとってもきっと大切な場所だ"。きっとこの手前の女性にとってもそうだろう。この女性は、必死に家の方を向いているので、家(=大切な場所、もの)に強く思うことがあり、この女性はこの絵画の中で厳しい世界で必死に生きているのではないのかと私は思う。



## ■ 美術感想文

提出日： 月 日

図

A) B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4231

鈴木琴葉

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

人と月

見方によらず、人と呼ばれたかと思うが、私は「人」と「月」のように見えた。しかし、人にしては変わっているし、月にしても色は月が「形」が月ではないような気がする。

線がきれいで、まっすぐな線、ゆるやかな曲線が背景によつて、すこく目立ち、きわ立ち、見える。目立つからといって、色がすこくは、きれいした色ではなく、淡いほかにしているような色なのに、とてもキレイに背景から浮いているように見える。

ふんわりと柔らかな色、線から、不思議な気持ちに持たされ、いかれるが、身体を表している部分と思われる白と赤からはすこく強い気持ちのような気がする。

目からのびた線、葉、はどのようなものは、何を表すのか。

細い線で、気をつけて適当に書かれているような線は、その性格を表しているのではないのかと思います。

そして、何かと、にえるような絵なのかと思います。

適当に自由に書かれているように、月のような黄色の線は、キレイな線だし、細かい所も気をつけていたように見えた。しかし、やはり少し雑なように見えてしまうところもある。

ふんわりとした色で、しかし、きれいしている線、とても不思議な作品だなと思います。顔である部分には、黄色もまざり、色をぬいている時に少しまざり、したのか、と思います。

背景の上の方は少し暗い青だが、下の方にいくにつれて青になら、いるのがわかる。体の中の赤と、黄の部分は、周りとは、きれいな色で目立つせいで、たのか、と思います。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図


 1点提出  
 2点提出

学生番号

氏名

4232

川原田明有妹

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

人物の目

色が淡く、きれいだった。人のように見えるが、不思議な形をしている。現実世界とはまた違う、ある種の空間の中にいるような感覚である。そしてそれは冷たいというわけでも、あたたかい空間というわけでもない。時間が止まったような、宇宙のような、何も無いような。そこから見つめられている印象も受ける。そのせいか、少しの間目を離せない状態にあったような気がした。

画面上にある形は人の横顔のように見えるが、それは形がくずれている。人というよりも、一旦ぼっと見たときは線や色面が強調されて見えた。感情があるものには見えなかった。しかし、一番最初に私の目に飛び込んできた、黒くて細い線で描かれている、少しいびつな形をしている「目」のようなものには、何か力強いものを感じる。鋭くて、よく見ると少しとがった形をしているからか、こちらをにらんでいるようにも思える。他は色面とかで、線で描かれているのはその部分だけであって、少し異質な感じがしてさらに目立つ。何か訴えているのかと思うほどの存在感はあった。

今記述してきた形以外にも、黄や赤の面がある。黄色い方は、形状から煙のように感じた。ぞあるとすれば、「目らしき所からのびている線は、タバコのようなものにも見えなくはなかった。

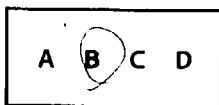
私が時間が止まったようにも感じたのは、この絵の構成に、あまり奥行きを感じられなく、平面的に見える、そのせいか動きがあるように見えなかったからだろうかと思った。

そう感じはしながらも、赤、白、黄の色面の単純さとは対照的に、背景の色彩は良い意味でムラがあり、色に深みがあって複雑な感じがある。しかも、きれいな色彩だ。青、ほく、赤、ほく、黄、ほく、たりする。また、ぼやけた白は光にも見える。それでとても神秘的に感じる。「目」の部分にはその背景がのびてある。だからさきほどから私はその「目」に吸い込まれているのだろう。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4232

川原田 明有未

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

クリスティーナの世界

まず、たおれこんでいる女性に目がいく。そして、彼女は自分から見てうしろ姿ではあるが、その視線の先はきつと遠くにある家なんだと思う。今の状態から抜け出したいとでもいうような姿勢である。広い草原の中に1人ぽつんといるように見える。この絵の題名からして、多分この女性がクリスティーナで、この空間がクリスティーナの世界であるのでは、と思った。

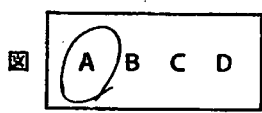
「クリスティーナの世界」がこの絵に描かれていることであれば、クリスティーナは何らかの不安があるか、苦しんでいると思う。それも、一人ではどうしようもなく、誰かに助けを求めている状態。そして、その助けの求め先は彼女の視線の先の家に向けられていると思う。左にあるもう一つの小家でもなく。

私は、アディル・ワイスの絵や習作は以前画集などで見たことがあるが、この風景はその中でよく見た気がする。ということは、この絵の中の人や家は作者と非常に身近にあったのではないかと思う。もしかしら、彼女の助けは作者か、作者の身近な人に求めていたのかもかもしれない。

この絵は全体的に少し暗く感じる。直接的に色をダークにしているわけではないが、草も少し暗い色で、空なんかは完全に曇っているように見える。クリスティーナの着ている色も派手ではなく、色あせた感じだ。やはり、この女の人は幸せであるとは感じられない。何か悩みがあるに違いないと思う。そして、それがもし作者と身近にあったとしても、作者もなにもすることかできないようなことなのではと思う。それでこの絵を描いたのではないかなと思った。作者の境遇にも興味を抱いてしまう作品であるなと思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4233 氏名  
 栗木 香織

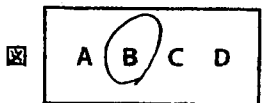
タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
 心と人との思考

ミロの抽象画である初対面この絵を見たとき、涙を流し下り息を  
 ついていて人物の模様が抽象化して描かれている、という印象を  
 受けた。全体的に原色に近い鮮やかな色が使われている。  
 赤と黄の対比とした対比が強い印象を受けるが、かといって画面全  
 体から強さを感じ取ることがなく、むしろ何故か隠れがちで「落ちてく」印象  
 を受ける。黒で割と対比と描かれた目の部分もこのことから  
 物体を表現する線は、むしろ「深い」印象を与え、画面を彩り  
 する重要な役割を果たしている。描かれているものからは何か心と人の  
 あり人物が下り息を吐いているものさびしさを感ずる。また、吐きだされ  
 たものが、物体の一部分として表現されることで、その吐き出した息と  
 向き合っているようにも見える。このように「さび」かという印象  
 を与えている部分も描かれてはいる感じがするが、それを描きだ  
 してはいるが、タッチの影響により、それは悲観的なものではなく、  
 ど「さび」かという、柔らかな雰囲気を与えている。また、模様の一部分で  
 ありながら、目の部分の物体はどちらかという正面のもののように表現され  
 ているため、強い意志の一部分さを感じ取る。このように描かれているものと  
 その雰囲気の違いが不思議な画面を演出しているが、そのギャップが  
 この絵の強い魅力に繋がっているのではないかと感じる。

この絵は全体的にあり、描かれている形もど「さび」かという簡  
 単なものである。しかし見たときの色の印象も、原色をそのままというの  
 混色をしていないもののように感じた。それでもこれだけの雰囲気をつくり  
 だすだけの深みを感じるのは、この絵に描かれた形、ノリや、  
 色を塗りだすタッチの中に、強い意志が込められているからだと  
 感じる。これは描かれているものも作者の内面が画面に現れ  
 ているものではないだろうか。

■ 美術感想文

提出日: 7月17日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4233 氏名  
 栗木 香織

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
 タイトル  
 世界

非常に写実力の高い絵画である。足が不自由な女生が地面に  
 手を叩いてはいくばるおのり姿勢をとっている。その女生の視線の先は  
 遠く高層ビルと云うに家々が建っている。女生の様子や、家までの  
 距離感が果てしなく感じさせるおのり構図から女生が家に戻りたいの  
 にたどり着けぬ様子を描いているおのり思った。描かれている女生が  
 非常に写実的に描かれている影響でその様子がリアルで実際  
 にはないおのり場面でもその場でスクリーンで見たおのり感じを強く  
 感じさせる。また、そのリアルさがこの悲観的な状況に強言して  
 いるおのりに思ふ。更に、女性側の草原の色と家が建っている側  
 の色が違うことが非常に残酷に感じさせる。  
 絵から感じる雰囲気として、天気が非常に良く、空が少し青から  
 いの時間帯のおのり感じがした。また、女性の髪がなびいているところから  
 風が吹いていることがわかるが、それが更におのり感じさせて  
 いる。全体的に落ちついた色もまた、その分の雰囲気を強調させ  
 る要素に及んでいるおのりに思ふ。このおのりに果てしなく距離を感じ  
 る場所に建っている家と、草原とこの女生以外、何も描か  
 れていないことから、自然の大きさと人間の小ささを暗示してい  
 るおのりにも思えた。人間が自然の中に生かされていること、決して  
 かたうことではないということを訴え込んでいるおのりも感じた。  
 また、ただ一人という状況が孤独さを感じさせ、見ている側が  
 女生に手を差し伸べたいおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのりおのり  
 目の前で実際にこのおのり場面があったら立ち止まって行動を起  
 こせるおのり胸を強く打つおのり状況である。また、それを高い  
 写実力で描き出されることにおのり見る者に強烈な印象を残し  
 ていくおのり非常に強力な持った絵画だと思ふ。

## ■ 美術感想文

提出日： 月 日

☑ (A) B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4234

松浦歌織

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

乾いた涙の人物像

これは人た？うか？は、と見ての印象が、それだ。水彩画を思わせる青いマキエールに、へた塗りて白い人の横顔が描かれている。目はカッと見開いているように見える。その目からは、葉た？うか？それか？こぼれ落ちている。こぼれ落ちる、と表現したのも、それか？少しだけ涙のようなものを思わせるからた。目からは、はりと葉のような涙のようなものがこぼれている。そう思うと不思議な気持ちにさせる気がする。この人物像の胸の部分は、白い部分が一部切り抜かれて、そこから赤か？のぞいている。さらにその向こうには、あの背景の青いマキエールが見える。内臓。思い浮かんできた。鮮やかな赤か？内臓を思わせる。この白い血の気のない人物像は、体を貫かぬ、内臓を露出させているのか。そして大きく見開かれた目からは、葉のような涙をこぼしているのか？うか？。ひんやりとした青い背景に、それは少し唇をすくむたくなるような緊張感があつた。顔の横には黄色い、妙な形がある。これはなんなのか。なんとなくだが、この黄色い形は横顔に、ほりとはまじりしう気がする。仮面た？うか？。今からそれを顔につけるのか、それとも外した後ののかは分からない。とにかく仮面。仮面と言うと何かを隠すのをイメージする。涙を隠そうとしているというのが自然な考へ方だ。この人物像は、体を貫かぬ涙を流しているのに、それを異様に明るい黄色の仮面で隠して、なければならぬのか。とここで、そういふは、この目からはこぼれる葉は何なのか。葉といふといふかは、枯れしうことを連想する。くたひねり枯れしう。そう考えると、私の中で全てか？まじりしうた。この人物像は、身を切るような思いに、くたひねり涙したのかもしない。それを隠すための明るい黄色をした仮面か。そう考えると、とても、悲しい絵だ。

■ 美術感想文

提出日： 月 日



図

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名  
 4234 松浦歌織

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

タイトル

クリスティーナの世界

この絵を始めて見たとき、先生が「切ない絵ですよね」と言ったのを覚えている。手前にいる女性、悲しくこの人がクリスティーナと思わしき人が、何をしているのかよく分からなかった。先生はこの人は足が悪いのだと確か言っていたと思う。それで納得した。この人は遠く腕の力だけで移動しようとしている。この絵を見ると毎回その時のほろろとした感覚を思い出す。改めてよく見てみる。以前から思っていたが異様に草原の面積が多い。この絵はクリスティーナが遠く向こうにある家へ移動している絵だ。それだ。私はクリスティーナのすぐ後ろに立ち、彼女をズームアップして、その向こう側に家があるという構図で描く。それなのにこの絵は緑の面積を多くと、そこにほうんと彼女を描いている。アンダー・ワースはクリスティーナを描くと同時にこの広い草原を描きたか、たのか。クリスティーナに視点をしぼって見る。アンダーから生えている腕は女性にした。細すぎないように思える。それに白い。傳う印象はこのせいだろう。それに白い限りなく近いような色のアンダーも長くしている。それが体をわけて、遠く向かうとしている家はすいぶん絵の端に追いかかっている。この絵は、ただ、広い草原とそこに小さくいるクリスティーナを対比して描きたか、たのかもしない。生命感あふめる草原に對して、彼女は華奢で弱々しい。そんな彼女が画面のすぐと奥の遠い家を目指して手で這って移動している。先生が切ない絵ですよねと言っていたのにもうなすける。この広い自然の中で彼女はとても無力だと思える。それともクリスティーナの左手がしかりと地面をきりしめしている。始めこの絵を見たとき、しかり見ることもなく、何も思いはしなかったが、こうして見ると本当に切ない絵だ、と私思った。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4235 氏名 米内俊貴

タイトル

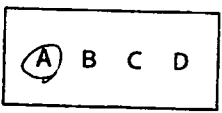
作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を委細する。  
あの日から

僕が選んだこの作品、何だか切なさを感ずると思っ  
たのが第一印象。 少くともこの絵画から明ら  
いフードは、想像でありませんでした。  
それはなぜなのか、と考えた時にまず最初に思った  
ことが、手前にはすわりこむ一人の女性の姿です。  
座りかたは、何か大事な物にみすめられたかのような  
演劇の世界で悲劇の主人公がスポットライトを  
ステージにあびている様な格好、そしてこの女性は  
画面左上にある家の右を見つめています。 一に、  
何かを求め、うらやまをまじりて見つめているのでしょうか。  
あそこに住む誰かに見られたのか、それとも、過去  
に住んでいた思い出のつまった家なのか、色々と  
想像をかき立てられます。  
逆にあの家を明ら、未来と考えるのはどうだろうか  
と思考しましたが、やはり悲しい画面に見えてきます。  
その原因は、色にあるのだと思います  
画面全体にフィルムのような様にかわる緑色、そして、  
その色はどにかかすんだ色もしています。 うす汚れた  
緑色。 このあめかしい雰囲気をとっても、僕は  
やはり過去を想像してしまいます。  
この女性は何か過去への後悔があるのか、過去  
に何かを置き忘れてしまったのか、ストーリー性を  
感じました。 題名はそんな彼女があきらめきれ  
ない過去の後悔を引きづるキッカケとなった日と  
元を考えました。



■ 美術感想文

提出日: 7月 7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4236 氏名 伊藤 水糸

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
 タイトル Blue

見た瞬間、直ぐの上に「？」マークが浮かんだ。よく見てみると、これは「人」だ。ううか。そして「ん」「ん」を確信する。そうだ、「人」だ。と。  
 よく分らない点には沢山ある。まず「これは「彼」なのか「彼女」なのか。この人物の本質にある黄色いカタマリは一体何なのか。人物の目からでている糸糸のようなものは何なのか、まつげは何か、髪はまた別の何かなのか。正直、この糸糸に描かれているものの「人物」以外のものが「何なのか」だ。けれど「分らない」。しかしそんな理解が難しい作品ではあるけれども、この色彩のわがわがさ、形のわがわがさから不思議とスッと心に入ってきてしまうような魅力がある。ぬかぬかとした糸糸本のような、なつかしい感覚にも似ている。「なつかしい」とはかたよらずとも良い意味を込めている訳ではない。私は幼い頃、沢山の糸糸本を語りかきかされて育ったが、その中にはもちろん子どもながらに怖かったものや、不気味に感じたものも多々あった。この糸糸には、そういうあらゆる不気味さをも兼ねた「なつかしい」を感じる。わがわがな色彩と糸糸が入ってきたりからこそ、その不気味さ、不思議さをも兼ねて入ってきてしまうような。もしかしてその「不気味さ」とは意味のわがわがさからきているのかもしれない。知らぬものか、恐ろしく感じるように。

美術感想文のお手本になっている赤津真川原平さんは、「買いたいか、そうでないか、というのを絵を見り尺度にしている」と書いていた。美術作品とは結局、見る側の好みであり、谷沢いか谷沢くないか、部屋に飾りたいか否かというところで「自分の中での価値」が決まってくる。

そういう観点から考えると私はこの糸糸を部屋に飾りたいとは思わない。なぜなら私はこの糸糸を見ているとどうしても少し不安な気持ちになってしまう。不気味だと感じたり、不安な気持ちになる糸糸を谷沢いかとは、とても思えなかった。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

☒

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4236 氏名 佐藤 水糸

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。

草原に居る女

美しいがどこか寂しい絵だと思った。この絵に描かれている女性の目には一体何が映っているとして何を思っているのだろうか。この絵を見ていると、様々な物語が頭の中に浮かぶ。この女性は、もうあの家には戻れないのだろうか、とかその目はあの家を見ているようで、実はただ広い草原の中に大切な人の面影のようなものを見ているのかもしれない、とか。寂しい絵だと思っているからこういう少しもの悲しい発想をしてしまった。もしかしたら、たまたま誰かに呼ばれただけだったり、食事の時間になり身を起すだけかもしれない。とんとん頭に浮かぶものを書くのは長くなるので、とりあえぬ横に置いておいて、とにかく言いたいことは鑑賞者(少なくとも私には)に様々な想像をさせる作品だ、ということである。

では、私がこの絵を「寂しく」感じたのはなぜなのか、少し考えてみることにする。気になったのは彼女の左手だ。この何かにすがるように草の上に置かれているこの左手が、私にはとても切なく感じるのである。そして、彼女の求めるその「何か」が彼女の目に映っているものなのだろうか。

そしてこの作品独特の細密な描写にも寂しさを感ずる。それは細かく描かれた草原が、一つのリアリティをもってどこまでも糸売っているような感覚からくるものだが、家があるから人はせにもいるのかもしれない。しかし、このどこまでも糸売っていくような草原の広大さゆえに、その中にホッとして取り戻されてしまったかのような彼女の孤い独を感じてしまう。

作者のこの変にリアルで生々しい表現が、私の中に寂しさを残らせる。先ほどから寂しい寂しいと言っているが、この作品が女らしい言尺では決してない。むしろ好きな方である。美術作品に対する最終的な見方は、「女子系」か「女らしい」かではないだろうか。なんとなくで「直感」と私は思っている。そして私の直感はこの作品を「女子系」だと判断した二つのである。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月 7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4237

池田梨乃

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

月にふれたい

すごく抽象的な線で描かれていると思いました。

背景の色のぬり方にムラがあって、人物の顔・体のラインが丸みを帯びていて、作品全体からふわふわした印象を受けました。さらに、悪く言えばすごく適当に描かれていて、作者が自由奔放な人なのかとも思いました。

人物の体の一部をすかせて描いていて、さらに、そのすかせている部分にあざやかな赤色が入っていることで、この人物が生きてみえると思います。

目とクチ(?)がぶつかっていたり、クチがりんかくからはみ出たりしていて、不気味なイメージを受けますが、背景にあざやかな青色をもってきたことや、人物のやわらかな形のおかげで、その不気味さが緩和されていると思います。

人物のとなりにある黄色のかたまりが月にみえました。

作者は月をさわりたいと思っていて、そのあこがれから、月と人物を近づけて、"あと一歩"という感じにしたのかなとも、考えたりしました。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4238

塚本 菜摘

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

(自分で考えたタイトル) ワタシ(カオ)

D

最初にこの絵を見て、人と月を描いたのかな?と予想しました。

画面が全体的に青いので、夜なのかなと思いましたか、  
描かれているものの形がずごく歪んでいるので、もしかしたら水面にうつた  
人と月なのかもしれないな、と思いました。

人のようなものの、上部にあるのは、口だと思います。目にも見えませんが、  
くちで葉のついた草をくわえているように見えました。下部の赤いものは  
内面の状態を表していると思いました。ずごく不自然に赤いので、  
傷ついているとか、落ちこんでいるとかの感情っぽく思いました。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4239

後藤 はづき

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

女性

女性の人物像にみえる。

目のように見える部分からのびている葉のようなものが、  
女性の長いまつげのように見える。しかしそれと同時に  
女性の目から濡れ落ちる涙のようにも見える。

背景の青とも重なって、悲しみの女性像のよう感じた。

そして、左上に浮かんでいるのは夜空に浮かぶ月で、  
女性が夜空の月を見上げて、家族、友人、あるいは恋人の  
いない孤独をなげいているので「はなつか」と感じた。

とても明るい絵にはみえない。周りに何も描かれて  
おらず、女性一人が描かれていて所から、どこか  
寂しい絵だなという印象を受けた。

目だと思われ所も、白目にあたりである部分か  
にぶっている表現からも涙ぐみ、今にも涙が  
濡れ落ちてしまっている、あるいは目一杯あふれ出ている、  
そんな様子に思えてなるまい。

また、左上に浮かぶ月は女性が吐き出したため息にも  
見え、ほんせりと形の定まらない所や、先端のふく  
ぬられた部分が女性のほろりとした不満の現れのように  
見える。

服のように見える銅体の赤い模様も、彼女が内に抱えた  
怒りやいらだちのよう、何か強い、あまりかたせか  
くはたしい感情を秘めているように見える。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4239 氏名 後藤はづき

タイトルの欄: 作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
 故郷

この絵は、遠く離れた家と、それを振り返り、  
 すがらうに眺めているように見え少女の姿が  
 印象的にうつる絵だ"と思う。

色あいも、色あせているようで、どこか寂しいおと  
 過ぎ去った時間を、表しているようにも感じる。

画面上で芝が刈りとられた、あるいは今までに  
 生えてきている背の低い部分と、おしいげ、ている、  
 刈りとられていた部分とが、広大に広がる大地と  
 そりに建てられては家の敷地のようにも見え、  
 その境界線が、少女の戻れない時間のような、  
 少女を拒絶しているかのようにも見える。

背の低い芝と、少女の存在する背の高い芝の  
 対比の表現は、少女の成長を表現しているようにも  
 見える。そうすると、戻れない時間、空間が  
 家の周りに広がっているんだとあとも感じられる。

または、戦争、疎開などで無くしてはった  
 自分の故郷を空想の中に見ているのだ"ろうか。

家や背の低い芝の光景は少女の過去の気持の  
 幻影で、何年、何十年を経り故郷に戻って来た  
 少女の目には、ただ広がる芝生があるだけ、  
 その場は崩れ落ちてしまっている、実は悲しい絵なのかも  
 しれない。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図 A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4240 氏名

津田 光太郎

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要約する。

クリスティーナの世界

勘違いをしていた。長いこと、この絵の題名を「クリスティーナの孤独」だ、たと記憶違いしていた。何となく不安に感じ、iphoneで検索をかけると「孤独」ではなく、「世界」であった。この勘違いのせいで、僕はこの女性がより孤独に感じた。世界に一人かの如く、広い原っぱに居る女性は、何をしているのだろうか。振り返って、家の方に向いたのか？背を反らし、背骨を鳴らしている？(おそらく違う！)手前は雲の影により暗く、奥の草は雲間に日が差し込んで明るい。そして建物は陰を帯び、ドゥリと奥にある。右奥の建物は周囲の光との差もあって非常に印象的だと思う。女性の向く方向、そして建物の描写を見るに、『女性』の『目的』が『建物』であるという想像が出来る。「日向ぼっこをしていて建物から大きな物音がしたから...おどろいて振り返った図」では無さそうだが、腰から首にかけて明らかにかが入っているし、手は家のほうへ置こうと伸ばしている。ここまで絵を見ても、この状況は謎を叫ぶばかりだ。いつの間にか孤独だという最初の認識を忘れていた。孤独をテーマにするならば、この絵はもっと孤独を演出できる題材ではないか、とも思えてきた。女性をもっと暗く出来たはずだし、建物だって数を減らしてもいいし、原っぱをもっと広大に出来たはずだ。しかし、そうしなかった。画家は何を思い描いたのだろうか。ここまで書いて、やっとこの絵を俯瞰して見ることができた。やはり勘違いをしていた。この女性の後ろには、画家が居るのだ。この絵は、孤独ではなかった。

気になったので、深く調べてみた。

アンドリュース・ワイエス「クリスティーナの世界」

1948年のテンペラ技法の作品だった。

小児麻痺というワードが出た瞬間にピンと来た。  
大草原を自分の意志で這い進む女性の姿だった。  
細い手足も言われて気がついた。どこまでも  
悲痛に感じるが、同時にたくましさを感じる。

女性は建物に向かっていたのだ。そして、  
病いを背負いながらも、地を這い大地に触れ、  
進む彼女クリスティーナの大地、視界そのものが、  
「クリスティーナの世界」なのだなと理解できた。

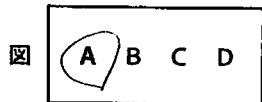
情報を付け加えることが、二人にも、作品に  
深みと愛しさが湧かせるものになるためには、  
作品にはやはり深い精神性の物語が必要だと  
感じた。そして色々なことを考えながら日常に  
取り組まなければならぬと再確認する

一筆であつた。



■ 美術感想文

提出日：7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4241 氏名 千葉 明美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

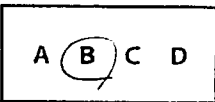
人と月

D

この絵を見たとき、何を描いているか全く分からなかった。よくよくじっくり考え  
 みると、向かって右側に見えるのが人で、黄色のものが月なのかなと思った。  
 そして目のようなところから出ている葉のようなものは涙に見えた。不思議な形  
 をしている絵だと思った。そして、もう一つ私に気がついたのは人の体の部分にあ  
 る赤色のものだ。初めは何かの膜様かと思ったが、人のとき、心臓のように  
 も見えてきた。しかし、やはり何を表現しているのか私にはまだ分からないようだ。  
 しかし、楽しそうな絵には見えなない。どこか悲しげに見える。そして曲線  
 ばかりでほとんど描かおているので、ふんわりとしたイメージももてる。ここ  
 で赤瀬さんの文章をみてみると、「人物を描いているけれど、人物の描写で  
 はないのだ」とある。確かに、人物に見えるが描写では無い。不思議な感じがした。  
 不思議な絵をみて、これはどの様な絵なのだろうかと考えてみるのも、いいなと  
 思った。たかさんの想像をひらいていくことも面白いと思った。

■ 美術感想文

提出日：7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4241      氏名 千葉明美

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
 草原      D

この絵もAの絵と同じように悲しげな見え方をする。遠くに家があり、その絵を見つめている女性。顔は見えないが、女性の座りかたなどで悲しげに見える。しかも、この絵には女性と家しか描かれていない。この2点しかないとも悲しげに見えるのだ。AとBも明るい絵には見えなかった。女性はどうして家を見つめているのだろうか。それとも別の何かを見つめているのか。よく見ればはっきりとは分からなかった。AとBを比べてみるとAはBの音がリアルであるかと思えた。同じ人物でも形や見方が全くちがう。どこの風景で本当におかれたのかとも思った。2つの絵はちがうなと感じた。

図 (A) B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

4242

氏名

橋本 莉也

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要領する。

もどかしい気持ち

最初見たとき、なんとなくモヤモヤしている絵だと思いました。黒や赤など、強い色彩がある絵であるのに、背景の青や、その地の上に描かれている白いものは背景と溶けているような色の置き方で、透き通っているような印象をうけました。真ん中の白いものは多分人かなと思いました。赤い部分は服のボタンで、黒い線でぐるぐるとかこたであるものは目だと思いました。黒いエダマメみたいな部分はヒゲなのか手なのかわかりません。白い人のようなものは横顔で鼻の下の部分の下に黒いエダマメみたいな形があるので鼻の下に生えているヒゲだと最初考えました。でも黄色のよろよろした部分がやき羊に見えました。黄色の部分の上の方の赤い色はやき羊の皮に見えたので、やき羊を取ろうとする手かなと思いました。つまり、食べようとする手です。でも羊をつかんではいられないし、食べている様子でもないのか、食欲を抑えているのか、食べたくても食べられないのか、たと思いました。目の部分から手が伸びてやき羊をつかまうとしているので、苦しいほど手にして食べてしまいたいような欲望があるにも関わらず、それが果たせないというもどかしい気持ちなのかなと思いました。そうして考えた後にこの絵を見ると背景の青い冷たい色もそれに溶けるような白い部分はもどかしい気持ちに溶けこんでいる様子で、この絵画が楽しい絵ではなく、辛いとか悲しいような絵に見えました。

図

A  C D
 1点提出  
 2点提出

学生番号

4242

氏名

橋本 拓也

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

土地平線と、横たえた姿勢から起きあがる人。大草原、遠くのいくつかの家。最初の、この絵から得たイメージは、静かな空間だと思いました。平和や、穏やかなイメージが見たときに伝わったのですが、起きあがって遠くの家を眺める女性の姿は悲しげです。向こう側の家に行きたいが、行けない、行くことができないような様子です。何か彼女のことを向こうへ行かせない、それが何か考えました。フランス・バルスの絵の「ジプシー嬢」という作品や、マネの「オランピア」など娼婦をモチーフにした作品は女性が白い服を1枚か2枚だけはおるような簡単な服装で、この作品の女性もそれと似ているので、この女性は娼婦だと思いました。貴族とはほど遠いこの娼婦がせめて田舎の平穏な生活がしたいが、それすらほど遠く、実現のあることの無い悲しい欲なのかなと思いました。この空間は娼婦の夢の中で、夢の中で気がついた女性が夢の中ではせめて理想のような生活を送りたいのにそれすらかなえることができない、むしろ悲しい絵だと思いました。立ちあがって向こうへ行くことですらできない様子からもう思いました。色彩も派手ではなく、落ちついた色彩なのでより一層悲しさが増していると思いました。

■ 美術感想文

提出日：7月8日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号	氏名
4243	森 遥奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「草原で望遠する女」

図Bの題材で「まず目につくのが力強い(まうに見える)女、白い服を着ている。そして、画面の大部分を占めているのは、女を取り囲むように、遠くまで見わたせる草原。女が眺めているのは、遠くにあるにしてはコントラストの差があまりにも激しい数軒の家が見られる。

私がまず「感じたのが、この絵は女は何かを強く訴えている、そのようなことを考えた。女が何かを見つめている、しかし表情は見えない。その何かは、見たところ向こう側にある立派な家ではないだろうか。その家々を見て、呆然と座り込んだ力強い女は、どのような思いを馬也せむるのであろうか。ということも疑問に思った。

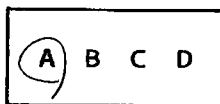
「しずう読み解いていこうと思う。まずは一番目に留まる女についてだが、白い服を着ている。白の意味は純粋、純情、潔白というイメージがある。普遍的なイメージでなら、この女には悪いイメージはつかないように思う。それに、まとめられた美しい黒髪(女性の象徴でもある)、細いうで、足からこの女は「立場の弱い、貧しい暮らしをしたかゆい女性」と読みとれる。のはしかけた左手からは、伝えたい思い、意志、しかし届かないという「届かない」気もちがある。風が強く吹き、髪がなびいている様子からは、届かない気もちの強さ、激情、真念が伝わってくる。構図や背景に注目してみると、まず「遠近感」がかなり目立つ。女と、その女が「訴えたい対象」にはかなりの「距離感」があるということだ。また、大きく分けられているように見られるのが「構成」にある。左上端に1点、右下端に1点を置き、ナナメに補助線を引いてみると、左下の弱女(白)、右上の立派な家(黒)が極立って対比され、貧富の差が表されているようである。加えて、途中で草の色が変わっている。向こう側とこちら側の「手前」を比べてみると、こちらは荒々しく、放置された状態で、向こうは整えて、きれいに揃っている。こういったことも貧富の差というものが表されているのではないのか?と思いました。

最後に、意味を添加してみる。この絵は女性差別や、貧富の差の社会情勢を、弱者の視点から訴えており、非難している。そのように私は社会的背景をつけ加え、推定をする。

## ■ 美術感想文

提出日：7月8日

図

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4243 森 遥奈

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「さける」

やわらかい。私はまずこの絵はもの悲しいような、それでいて優しいようなやわらかさを感じた。フリーハンドのようで、しかしゆくり、ほつきり、軸はきちんとしている線。ただ、しつ気になったのが1つある。それは後で述べる。そして色について。黄色がかなり目立つ。そして3ヶ所に散っている赤、この2色は鮮度がほつきりしているせいか、私の心に迫ってくるものがある。ふわっと描かれている青は、まるで夢の中にいるような、心の想像のようにおぼつかない。おぼつかないものの中に人みたくなものが白く、うすら、背すじを伸ばしてうすとしている。

この絵からは夜の雰囲気やわやわとしていて、落ちつかない。その落ちつかないさは人の中に存在する生々しい赤のせいだ。夜なのは、うすらした冷たさを感じる青さと、上にゆらめく黄色から、自然に月を連想してしまうからだ。触ると夢幻のように消えてしまおうになる。しかしその中で芯はほつきりしていて、なぜかこの無機物的な作者の筆づかいには、こちら側もドキドキしてしまうような気もちのリアルさ、つまり現実感が迫るのだ。熱いものが私に訴えかける。この気もちは何なのか？

そして形。先ほど言った月のようなものは何なのだろう。先には少し赤がういている。初めはニワトリに見えた。実際は違うとは思っていたが、とりあえず生きているようには私には見えた。月、ニワトリと来てみたが、夢幻と連想を繋げてみると、この白い人物は誰かを想っていて、その横顔が描かれている。そのような印象を受ける。

上で述べた気がかりについて。目はフリーハンドで描かれているが、目の中心(奥)はあまりにも幾何学的な丸。かなりほつきりとある。吸い込まれそうなおぼつきり強さ、そして冷たさ、固さがこちらをじっと見させている。草のように涙が固い夕奈から成長しているようだ。赤色のポイントでどんとん生えてきそうな気がする。

私はこの絵に共感したい。それはこの絵が私に似ていると感じたからだ。とくに恋をしたときの私に。虚ろの中でフワフワい、不安でいっぱい、しかし気もちが生々しくそして血がたぎるようにドキドキしてくる。その中には芯の強さ、外に表れる不安がある。激しい気もちを冷静に見つめている人物。それがこの作品に思える。

■美術感想文

提出日: 7月7日

図 (A) B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4244 氏名 太田 早紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。  
「悲しい人」

人を抽象的に描いた絵だと思った。背景の青が悲しいような、淋しいような印象を受けた。黒い点と円は目だろうか。普通人間の目は白い部分があるのに、この絵は逆に肌が白くて目が青い。背景も青いため、目に穴があいているように見えた。そのために、空虚なイメージを受けた。最初見たときは、目とそこからでている部分が魚に見えた。だが、空虚なイメージを受けた後に見ると、涙に見えた。すごく悲しんでいる人に見えるのに少し上を向いている。悲しい雰囲気なのに上を向いているから、力強いというか前に進もうとしているように感じた。でも、対象的に顔は横に向けて、前からそらしている。何か問題から顔をそらしているのだろうか。顔と思われ部分を見ただけで色々なことを想像することができて、おもしろい絵だと思った。体と思われ部分に空洞があり、そこ赤が使われている。これは心臓と他の臓器だろうか。これはどんな意味があるのだろうか。私は体の中身はこの人の本性、というか考えられていることだと思う。その本性が見えているため、嘘がばれてしまったのだろうかと思った。そうすると、顔をそらして上を向いているのは嘘がばれたのをごまかそうとしているのか、と考えが変わった。黄色い部分は口と思われるところから出ているので、いいおけをしているのだろうか。肌が白いのは嘘がばれて顔が青白く、血の気が回っている状態を表しているのだろうか。最初は悲しんでいるような、淋しい絵だと思っていたが、印象ががらりと変わってしまった。でも、全体的に悲しい雰囲気が変わらなものはなせだろうか。人間が追いつめられて、すごくそこにある絶望を想像してしまっただけだろうか。この絵は、見れば見るほど、印象が変わっていくのに、悲しい雰囲気が、とある。決して明るい絵だとは感じることはいままでのことだと思った。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4244

太田 早紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

「手を伸ばす女」

この絵は少し怖い雰囲気があるな、と感じた。ピンクのワンピースを着ているので、若い女の人なのだろうと思う。そして髪が黒くて、肌が白いのので日本人だろうが。歳は20代くらいだろうが。でも、髪がぼさぼさでも、と歳をとっているようにも見える。この女性の視線の先にある家は立派で、お金持ちの人が住んでいるのだろうが。他の家に比べて、大きさが全然違っていて、まわりの家が小屋のように見える。この大きな家につづく道に建てられているのは電柱だろうが。電気が通っているということは、そんなに古い絵ではないのだろうと思う。でも、まわりの家には電気が通っていないようだ。この家は、本当にお金持ちなのだろう。この家を見ている女性は、地面に座って、家に向かって手を伸ばしている。よく見ると、右足がないように見えるのは気のせいだろうが。よく見えなくて分らないが、そうだとしたら、彼女は立つことができないのだろうが。それで、家に帰ることができないとしたら、怖いそうだなと思った。必死になって前に進もうとしているのか、指を地面に叩きつけているように見える。彼女はすごく心配している。髪もぼさぼさだ。いったいいつからこうしているのだろう。ずっと、こうして、家に向かって進もうとしているのなら、本当にかわいそうだな、と思う。そして、この女性は、どうして一人でいるのだろう。なぜ誰も近くにいないのだろう。この女性を助けてあげようとする人はいないのだろう。家も、人がいる気配がないのはなぜだろう。もしかしてこの女性の足がないことも、人が他にいないのも戦争のせいだろう。だとしたら、すごく悲惨な光景を描いた絵だと思った。そうではなかったとしても、怖い雰囲気のする絵だ、と思う。家までの距離も途方もなくて、無理だと思ってしまうくらいだ。どんなに手を伸ばしてもとどかないと思っても、手を伸ばしてずっといる姿が、見ていてつらいと感じた。この女性が家にたどり着けたらいいな、と思った。



■ 美術感想文

提出日：7月7日 月

図 (A) B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名  
 4245 石川 愛莉紗

作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
 タイトル 拒む人物像

不思議というよりも謎が多すぎて私には理解できない作品だなという印象が強い。  
 私はこの絵を好きにはなれないなと思った。色は背景のブルーと下方のレッド、左上のイエロー  
 人物はホワイトでブラックが面積は狭いのだが変に画面にこびりつくように強く嫌な  
 という印象を受ける。とても表面からはうかがうことができないこの人物の感情が上手く表  
 して、見ていて考察しようとしても拒んでくるこの絵の不思議さと強さに嫌悪感と  
 感じざるを得ない。人物もつかみどころがなく見ている人間を小馬鹿にしたような  
 表情をしている。それにも腹が立つような感覚をおぼえる。だが、私の主観的な  
 とらえ方と別にこの人物も伝えようとしていることがあるのかもしれない。小馬鹿にして  
 その目はどこも見ておらず完全にこの空でなんだかショックな出来事でもあったのだ  
 ろうかと感じられる。そして目から出る黒は涙なのではないかと私は推測する。  
 黄色は魂なのだろうか。魂でなくとも喜びや楽しさといったプラスの感情が抜け落ち  
 ていく様のように思えてしまう。下部の赤はちょうど心臓の位置だろうか。だとすると  
 この心臓はもう今すぐにも二分してしまおうになっている。これは危ない。心を閉ざ  
 してしまうのだろうか。それとも建前と本音なのだろうか。文頭私から述べたように  
 表面からは人を小馬鹿にして、本音は隠しながら、本当は自分の気持ちも理解  
 してもらいたいのだろうか。そんな強がる人物像なのではないかと考えたが、少し愛着が  
 湧く。だが、やはりこの絵には不満に思っている点もある。それは、境界のことだ。  
 人物の頭はキャンパスギリギリにあっておまけにとがっている。私はどうしてもそこが  
 美しくないと感じてしまう。面と面の境界も下方はあいまいになっている  
 存在が弱く感じる。弱気で存在がうろたえているのかもしれないが、それには  
 はかばかり程度にしかなっていないと気がきづかいと思う。だが、不満ばかりでは  
 ない。背景の青とテクスチャはもやもやとした感覚や気分で弱さを感じ、その中  
 美しさがあるかと思え、線を使わずに面できっぱりと分けられているのが  
 強さがきつり無く絵画の一体感がでていて素晴らしいとも思っている。とても  
 悔しかった後、またこの人物に希望が訪れることを暗示しているようにも思え  
 て、安心して見ることできる作品であると思った。

■ 美術感想文

提出日：7月7日 月

図 A B C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名  
 4245 石川 愛莉紗

タイトルの欄  
 作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
 クリスマスの世界 / アンドリュー・ワイズ

この絵を見たとき私が感じたことは言葉にして表すと「哀れ」とか「無念」とかという類の悲壮に満ちた諷刺だった。全体の色調が黄緑の系統の色にあざむかれていてそれがさみしさをだたせているようであるなと感じる。女は草原に上体をななめに起こし、投げ出したように腰をふいている。私はこのポーズが「ほどく脆く弱いもの」に感じる。そして、女の身体はとて細く袖口からのぞく腕はもう骨と皮しかないのではないかと。というほどで女らしいやわらかな曲線が感じられるというものではないように思える。女はとて重い暮しをしていのではないだろうか。髪の毛はぐあいから働いてつかれているのではないだろうかと私は考える。つかれていて動くかえに残っていないのかもしれない。女はある一点を眺めているのだろうか。(後ろからでは推測しかできないが。)それは女の家にしてみればずいぶん豪華な家であった。だが、これは女の家ではないのではないだろうか。もしかすると女はこの豪華な家の使用人なのではないだろうか。だが、その家にはもう戻れないのではないかと。よく見ると家のまわりには区切りのように冊のようなものがあるし芝の色も異なっている。芝の色が異なっているといえは、女が座る位置と女から上のテントのふたごんまりとした家との間の草原の色も異なっているように考えると女が腰をおいている草原と絵画の上の上に位置する草原は別の空間であるように思える。だとすると、上の草原はひととち明るい草原だ。明るい草原ということは何か女にとっての希望の暗示なのではないか。ともとれると思ったが、逆に色は明るいから草はよく見て刈られている。ということは絶望だともとれるのではないかと私は思った。なぜ絶望かというと、草も生えない地ということは、生かれないことを意味し、まじや整備されたように刈りに刈られてしまっているということは、そこに生えていた草は人間の手によってそのようにされた。ということになる。ここでの人間の手は女が仕えている豪華な家の住人のことで、テントのふたの家は女の住んでいる家ということにあると女は住人に支配されているということの象徴なのではないだろうかと思った。そして草を刈るように女の心も身も渡らぬ果てけずらぬてしまっているのではないだろうか。と私は推測する。それでも懸命に生きようとする彼女に私もどんなに大変でも向かっていくことが大切であると再認識させられる作品であると私は感じるこができた。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月7日

図

A B C D

 1点提出  
 2点提出

学生番号

氏名

4246

古田 俊太郎

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

シロ

図Aの作品を見て初めに思ったことは、人のようなものが書いてあるのかなということでした。見ても考えても、どれが正解なのかと...うことを霧に隠してしまうような絵だという印象を受けました。

まず人のようなと思ったのは、シルエットはしきり鼻の部分があるし、頭部の中央からやや上には目らしきものも書かれています。首、ほく部分は頭に対し、細いですが、その後にくらんでいるので肩なのかなと思いました。

しかし、本当に人なのかを聞かなくても答えるのをためらわせた所もあります。背景が青、ほく、空なのか、海なのかもはっきりしませんし、さきほど目らしきものと説明したことから、枯れたような草みたいな黒くて長いものもあり、その左横には、黄色い月とは言いがた...けれど、ぐにぐに...した月みたいのがある、これも断言できるようなものがなく不安にさせます。人らしきものの肩らしき部分には赤い部分がありますが、肺と心臓なのか、正直よくわかりませんが、気になるのは、赤と青、白と黒が割と側に置いてあるので、何か意味がありそう。しかし、解きほぐすのは難しい...う感じでした。

赤や黄、白まで使っているのにあまり明るい印象を受けたいのは僕だけでしょうか。不安というよりも不思議という気持ちが見れば見れば、考えれば考えるほど、そういう気持ちになていくような気がします。全体をよく見てみると、上と下をよく見ると、上の方が若干青が暗くなっているように感じました。微妙な配色が不安や不思議を呼ぶ雰囲気を持つのでしょうか。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4246

古田 俊太郎

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

草原

草原の中に女性がペタンと座って大きな家眺めて  
いる絵と...うのがは、と見て思ったことです。朝早いのか  
なという感じが、秋、ほ...時期なのかというような配色です。  
この絵を見てると、楽しい気分になるというよりは、静かのような  
風の草を揺らす音のようなものを感じました。風景はかなり現  
實的だと思われ、草も刈らぬている部分とそうでない所があっ  
て、わがやあ...し、女性の髪が少し右の方へたなび...ている所から  
風を連想させます。引、かか子のは女性が大きな家を求めるか  
のように見ている雰囲気があり、左手を前に出しています。よく見  
ると、大きな家の周りに柵があり、女性と家には何らかの  
隔たりがあり、さらにそれを強調しているのが、草の刈り  
具合なのかなと思います。

一番疑問に感じるのは、大きな家の横の刈らぬた草の上に  
ある小屋です。あれは何なのか、寂しげで、は...とした感じ  
があります。女性の家か?とも思いましたが、女性の服装と  
いうか身なりはそこまじ貧乏そうには見えません。もしかしたら、女性  
はこの地の人ではな...のかもしぬな...と思いました。

まるで過去の思い出の一時のような色をした絵とも  
考えることができると思われ、たんとなく心をくすぐられる  
というか、連想を促すようなオーラを持っていると思います。  
連想させるにたる要因が工夫されて用意されていると感じま  
した。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4247 氏名 後藤 咲紀

タイトル

「望郷」

D

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

まずこの手前に描かれている女性は、体の方向や手が速くにある民家のような建物に向いています。ただ、この距離感では故郷をなつかしむほどの遠さはいまよく見えません。この絵は、現実の風景ではなく、この女性自身の心の中に描かれている風景だと思います。心の中では今でも鮮明な故郷の景色が生きていて、いつもそこに心を置いている、ということを表しているのではないかと思います。草原のような広くはてしない場所、というのも、心のイメージにつながるようなところがあるように感じます。この広い景色にぽつんと女性が1人という配置からは、なんだかさびしい雰囲気を感じました。

また、女性は向こうを向いていて表情が描かれていませんが、これは逆に想像力をかきたてられて、より作品に対する考察が深まる力があると思いました。私の想像では切なげな表情で静かに涙を流し、帰りたいとひそかに願っていると思いますが、人によってはもっと必死にもがくような顔や、ただみつめているだけ、というような想像をする人もいるのではないかと思います。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日



- 1点提出  
 2点提出

学生番号 4247

氏名

後藤 咲紀

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

「涙」

D

なぜ私が、この作品のタイトルが「涙」だと思ったのかというと、

まず白くて細いものを人間、その上部にある黒の丸を目だと思い、その目から出ているものは涙だと思ったからです。人間のとなりにある黄色いものは、形からして幽霊のように見えました。黄色というのは、個人的に「あたたかい」イメージがあるので、そこに描かれている人間に関係のある誰か会いたい人や、優しかった人の幽霊だと思います。そして人間はそれを見て、驚いて涙を流しているという解釈に尺りました。下方の人間の胸のあるあたりに入っている赤色も目を引きますが、赤は暖色で、特に「熱い」というイメージがあるので、この人間の心が熱くなっていることを表しているのではないかと思います。また形に関しては、砂時計のように目玉です。なので、人間が、黄色い霊の死後たった時間の長さを感じているのではないかと思います。背景の淡い青色が作品全体の雰囲気を落ち着かせていて、割と単調な配色なのに奥行きのある落ちついた絵になっているところが見ていて安心できると思いました。私は以上のような解釈をしたので、この作品を見た時、昔飼っていた犬のことや、優しかった曾祖母のことを連想して、なんだかじんとしてしまいましたが、この作品はそのような見方でいくと、見る人によって連想される人物はそれぞれ違って、見ている人の思い出によりそうことで何かを伝えようとしている作品のように感じました。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4248

朝日 美羽

作品の題名がなかった人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

タイトル

自分で考えたタイトル「生」

最初にこの絵を見た時、最初の感想は「何だ、これ？」だった。白いものは人だろうか。黒い丸は目だろうか。左にある黄色い物体は、先端が赤くなっていて、どこどなくエビフライを連想させる。白い物体から出ている黒く細いものは、微生物の足のような。白い物体の体(と思われるもの)の内部には、赤い砂時計のようなものがある。とても不思議な絵だ。

この絵のタイトルと作者名は、結局分からなかった。作者が日本人なのか外国人なのかの見当もつかない。何も分からないので、色々な想像をふくらませてみる。

この絵の、白い物体はやはり生物をあらわしているのだろうか。微生物の手足のようなものが出ている部分を、顔と仮定してみる。すると、赤い砂時計のようなものがある部分が体となる。砂時計は、血をあらわしているのだろうか。体内に流れる血が、砂時計となり、今生きていることをあらわしている。今も生物の体内では時計が進み、止まることはなく「生きている」ということを示す。

顔の部分に注目してみる。昔、理科の授業で見た微生物の足、触角のようなものが、どうしても気になる。この物体は、黄色い物体に触れようとしているのだろうか。この黄色いものは、なにか大切な物のように見える。やっぱり触れようとしているような、気がする。黄色いものは、一体何なのだろうか。下の方が少しおぼろげで、せわらかそうだった。この白い物体の元鬼だったらおもしろいと思った。元鬼はせわらかそうで、上にはぼっていているように見える。もしかいたら、この白い物体が、魂をひきとめようとしているのかもしれない。どうして魂は出て行ってしまったのだろうか。

作者もタイトルも何も分からなく、何を描いているかも全く分からないこの絵だが、想像力をはたらかせてみると色々なストーリーが生まれてきそうだった。タイトルを知ってからもう一度、この絵を見てみたい。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A (B) C D

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4248

朝日 美羽

タイトル

作品の題名がなかった人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

クリスティーナの世界

アンドリュース・ワイエスの「クリスティーナの世界」だ。この絵は、「どこかで見たことがある。おそらく有名で、一度は皆目にしたことがある作品だ」と思う。

自分の感想を大切にするために、この絵のタイトルと作者名が分かった所で、パソコンで検索するのをやめた。私はアンドリュース・ワイエスについてあまり知識がないので、何も知らないで「作品鑑賞をした方がおもしろい」と思ったからだ。

この絵の女性がクリスティーナなのだろうか。女性は、寝ている体勢から起き上がったところだと見える。しかし、ただ起き上がっただけでなく、少し焦っているように見える。まるで追いつけなかったかのような。右上に見える家に追いつけなかったのだろうか。女性は、そのポーズから悲哀感がただよってくる。楽しい絵、というわけではないだろう。

右上にある家が、「クリスティーナの世界」なのだろうかと思う。この女性がクリスティーナだとすると、クリスティーナはクリスティーナ自身の世界から置いてきぼりにされているのだろうか。クリスティーナは、疎外感を感じているのだろうか。何かから置いてきぼりにされているクリスティーナの心の内側だろうか。しかし、今クリスティーナが横たわっている草原は、やわらかそうで、どこか気持ちが良いようだ。それとは逆に、家の方は暗く、あまり良い雰囲気ではない。クリスティーナは、起き上がってそちらへ向かわなければいけないのに、なかなか立ち上がることができない、そのような感じであるとも推測できる。

絵の中の女性がクリスティーナなのかは分からないが、少なくとも、クリスティーナは建物の方へ向かおうとしている。もしかしたら、寝相が悪すぎて、寝ている間に外に出てきてしまい、焦っているのかもしれない。さまざまな物語を、この一枚の絵から作り出せそうだ。色々と、気になる部分の多い絵である。



■ 美術感想文

提出日：7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 氏名

4249 光永江里

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を後述する。

怖くなんかない黄色。

この絵を見て、何に見えるかと考えた時、私は人に見えた。だけど、物体的な人ではない。 朧けけを纏う背景の効果もあって、神秘的なものを感じる人である。

どちらかというと精神的な、形而上的な人な人のと見えかたをしていると考えたのだ。そもそも何故、人に見えたのかと考えたら、目と思われる部分にあると思った。その部分というのは、①←このことなのだが、そこだけもやが暗くなるように白がぬけているし、おまけに丸でかまれているし、点も付いてる。ころろとキラリと見えている。そんな風に見えるのだ。これでは目から連なるように出ているのは羽のような涙がそこから煙のように出ている黄色は何か。おつきさまにも見えるが、白い人物の鏡写しになった横顔なのではないかと思った。涙というのは、気分的に心地の快い幸せな時でも、ほたまた悲劇的な時でも、ともかく心が強く動かされた時に流れるものだ。自分ではその感情の正体みたいなものかゆがっている状態でも、それを受け入れる過程として泣くのではないかと私は考えているのだが、

そうだとしたら、この白い人は何を思っているのだろうか。生み出した黄色い顔と向き合っているのに目だけはころろとキラリと見ていて目を放してくれない。

なんだか吸い込まれそうだな。向き合っているものは何なのかゆがらないか。

私が胴体とみ合っている部分の内側が赤い。青くて物ざかさず、あまいて静かな空気感の中でそれに映えるなと思う。エネルギーを感じるので。そのエネルギーで鮮明な赤のおかけが、白い人はこの向き合っている黄色に負けないう希望を感じることかできる。加えて全ての色ににごりが無いなと思う。なんというか迷いが無く、すっきりとじり中に入ってくる。私は目玉の加入り具合でエネルギーな赤、向き合っている黄色の存在から、何かと闘っていることを想像してしまう。しかしその闘いは終えた後にはまっと肩を並べて先へと歩いて行けるような、羨しさがあるものだろうと思った。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4249

光永 三里

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

クリスティーネの世界

なんだか寂しさがある絵だなと思う。この絵は前から知っていたが、一度も  
 やりかたとか、明るさを感じたことがない。私はこの絵のような広げた場所が大好きだ。  
 だからもし絵の中に入れたとしたら嬉しくて楽しんで、そのような気分のハロワ-から絵の色調も、  
 ものと明るくて楽しい感じになる自信がある。しかし、このフェイスの絵は少し曇りのぼんやり  
 絶対風強い。クリスティーネも半袖では若干寒いと思う。それにホースも何か  
 悲しい感じがするのだ。安定だったり、安心というふうなイメージを持つ家が、画面ギリ  
 ギリの位置にあるのとあまって「私を置いていかないで!!」のような悲劇のヒロインを  
 彷彿させるホースだと思う。気持ちが良いから外で寝転がってたんじゃない。  
 彼女にとっては、この広大な草原も日常なのだと思えば、多分さしたることた「水と  
 不安がある、安心の象徴である家から遠ざかって、しまいに風にも吹かれてしまっ  
 ているのだと思う。というより私がいつもそう思う。いつもえも言えぬ不安を感じる。  
 例えるなら「明日」ってあんなとくるよね?とか、この世界は自分の幻覚じゃなくて本物  
 なんだよね? というような「考えてもしょうがない不安」と似た不安を感じる。  
 そうやって不安を見始めると、芝生の色が途中で変っているのさえ何かあるのかと思え  
 しまう。きっとこれは日常の中で起る事象の、まだ起ってはいない起点を描いている  
 絵なのだ。クリスティーネは、この絵を見る限りでもすいぶんほろりとして後ろ姿だけでも  
 「美しい」と思うけれど、この人大丈夫なのだろうか。元気なのだろうか。悲しい気持ちに  
 なっているんじゃないだろうか。この感想文をここまで書いてきて、「あ、この絵あんまり好きじゃ  
 ないのかな。」と思うのだが、この女性は何だかほろりしている。「元気になるよ、  
 声をかけて元気にしてあげたいな。」そんな気分になる。私にとっては  
 不安だとか、あまり考えたくはない、目を逸らしておきたい気持ちを生む絵だが、  
 結局は手元のほろりしたくなる。

この絵に描かれているのはきっと日常のほんの1コマだ。脅威ではないけれど、  
 忘れることは出来ない不安を内包しながら継続する日々に目を向ける作者に  
 思いを馳せる。この人元気なのかな。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図



- 1点提出  
 2点提出

学生番号

氏名

4250

三岡 ゆきの

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

成長

抽象的な描き方もされた人の絵だ。白でかたちどられている画面の中心に描かれているものは目のようなものを持ち、横顔のようなかたちだ。赤いものは、臓器を連想させる。背景のあわ「ブルー」と良い調和を保てる。このレッドがあることで絵全体をパッとさせ、完成度を上げていると思う。作者はなぜわざわざ臓器をかいたのか。臓器は生命の象徴だ。このあざやかな赤は生命力を感じさせる。この人間が生きているということも明確に示しているのではないかと思う。

目から植物のようなものがのび、画面の中央にきている。黒で描かれ、自然と目にはいってくる。さやえんどうのようなものが4つ、1番細いものをいれれば全部で5つある。5本といえは指だ。手を表したのではないか。しかし、目からのびる「それ」は、やはり涙なのではないかと思う。大きく見開かれた目からこぼれる涙。重力に反し、左にのびていく。そこから黄色の物体が出ている。この画面の中でひととき不思議な雰囲気をかもし出し、謎な存在だ。この黄色の物体の感想を述べる前に、なぜ涙を流しているかを考えようと思う。人と他の動物が大きく違うことのなかの1つに、感情表現の豊かさがあげられる。笑ったり泣いたり、感情をはっきり表に出すことは人の特権なのではないか。ここで、この人は泣いている。この生き物が人であることを自然と鑑賞者に感じさせるために泣いているのだと思う。

黄色の物体が、涙の手からすりと抜けていく瞬間をかいているように見える。自分の持っている何かを失ったのではないか。

この黄色は、目に優しい。子ども頃遊んだ「みきや車のおもちやが」こんな色をしたなと思う。

これは子どもから大人に変わった瞬間なのではないかと考える。  
子どもの頃、突然泣いたことはないか。世の中の事情を  
感じとり、大人の世界を知り自分ももう子どもではいられないと  
突然悟ったことはないか。

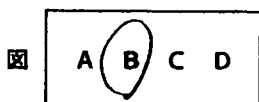
子どもであった心が手から離れ顔を合わせる。自分の中に  
子どもであった心がなくなり大人の心しか残らなくなり驚く。  
目も見開いているのはそんな理由からなのではないかと思う。

泣いているのにも関わらず、この絵の全体からは悲しみは  
感じとれない。これは色だと思う。さわやかなブルーの背景と  
気持ちの良い赤との調和。黄色の面積も丁度良く、  
あっと入ってきて重くない。ずっと見ても軽い印象だ。  
すぐに過ぎ去る瞬間を描いたからではないか。ただ、  
軽いといえども、忘れられない絵だ。

鑑賞者にたくさんの様な想像をさせてくれる、おもしろい  
自由な絵である。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4250

三岡ゆきの

タイトル

作品の題名が決った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

未練

この絵は全体的に緑で、人物も緑がかっている。肌も緑がかっているため体調が悪そうだ。人物に7いてわかるのは、うすいピンクのワンピースを着てうしろに髪の毛をしばっているため女の人だということだ。

地平線が絵画の半分より上になると現実味がなくなり幻想的になると聞いたことがあるが、この場合は坂になっていて、より家との距離を感じる。また、家のえんと7のようなものを切った構図になっていて画面いっぱいいっぱい距離をつくらうとしている。草原がゆるやかに右上がりになっているため家が頂点、ゴールなのだと無意識的に認識される。

女の人の髪がなびいている。風が家の方向から来ているのだ。女の人には左手を前にのびし上半身は家の方向にある。下半身は左下に向かっている。家になんらかの思いがあり上半身は向かっているが、足はその思いとは反対に家に向かおうとしたくない。なにかの未練たぬらいを感じる。女の方は家に向かっているが、家の入口は右方向を向いている。まるで、その女の人には興味ないとしても言いたげの冷たい家だと感じた。

人がいるあたりの草原だけ明るく描くことで自然とその人に目が行く。その後、女の人の体の方向により、家へと視線がうつるようになっていく。

家の手前には細い道と電柱、車の跡のようなものも見える。女の方はなぜ道から外れた草原にしているのか。普通ではないこと、公にはできない理由がなにがあるのではないかなと感じた。

つぎあついた男に不倫され別れた女の人。男はその不倫相手と家庭を築いていた。未練のある女の方は歩いてそこまで来たが、やはり見ることはできなくて悲しみにうちまがれている様子だと予想する。なぜ悲しみを受けたか、というと全体の色が寒色であるということもそうだが、なにより、女の人の体勢だ。ディズニー映画で

フォリニセスが「悲しみにうちひしがれるシーンでは必ずこの  
座り方、体勢をするため 自然とイコールで結びあがっていた。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

① A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4251

大池 ひとみ

タイトル

作品の題名が読めた人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

外と内と内

これは「人」を描いたものだと、抽象ではあるがすぐにはわかる。とても深い悲しみを持った人だ」という印象を受ける。そして、作者が頭の中でえがいていたイメージがそのまま画面になっているという感じがする。

バックの青がベタ塗りではなく、うすくぼたぼたになっているのが良い。使っている色は少ないが、色彩の交差を感じさせない。むしろ、それがバランスの良さを生んでいる。左上にある小さい赤が効いている。

目がとても印象的だ。泣いてはいるがその中に怒りが含まれていると感じる。言いたいことを言えずに、自分の中に押し込んでいってしまうもどかしさがあり、それも含めて怒りとなっている。それが目に表れている。この人物の身分は低いのかはわからないが、言えない相手がいるということだ。

目から出ているものは何だろう。まつげのようにも鼻のようにも音楽のようにも見え。具体的な何かではないかもしれないが、悲しみの表現で、まつげが下に下に沈み落ちるという感じかなと思う。黄色の形はゆがんでいる。これは、言葉にしたい気持ちと形で表現したものだと思う。体の中の赤は内臓的イメージ。ぼろろか煮えたりする怒りを体の中の赤で描いている。そう考えると他者から見える見えた目、表面はモノトーンだが、内側から出る感情が色がついていると思った。

この作品を映像的に言うと、第三章の目線から始まり、ぱんぱんこの人物にズームされていく。そして画面の内容が切り替わって(画は同じ)人物の内面が浮び上がってきた。という感じがする。この絵は、作者自身なのではないかと感じた。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4251

大池 ひとみ

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記述する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。

家政婦

さみしい、かばしい感じの印象を受ける。

まず、この女性の人はどうしたんだと思う。どうしてここに居るのか。なぜ家を見つめているのか、様々な疑問が次々に浮かんでくる絵である。なので、いつまでも見ていられる、見てほうような絵だと思った。

初めは、この女性は助かるのだろうかと思った。ここに捨てられたのではないかと思ったからだ。ただ、じっと見ていく内に、家とはあまり遠くないように見え、場所も牧草地のようだし、捨てられたわけではないと思うようになった。

では、この女性はここで、この不自然な姿勢で、何をしようとしているのだろうか。

貧しい生活をしているのは間違いないと思う。服装もそうだし、細い。充分な食料を食べていない、食べさせてもらえていないという感じがする。奥にある家は女性の住んでいる家であるが、家政婦のようなものだと思った。そして、初め女性はこっちを向いている。座って休んでいた。すると家から子ども泣き声が聞こえてきた。女性ははっとして家に向かって行かなければ...! という瞬間かと思った。でも女性は力が出ない、せつなげな表情。主人にしかられちゃう。早く行かなくて。

全体的に緑色で、暖色がなくて寒く、さみしい。健康的ではない感じである。女性の髪をびっかしている風が、より痩せ感を増していると思った。



## ■ 美術感想文

提出日： 月 日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4252

橋本千優

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

対比

私はこの作品を最初に見た時、涼しげな印象を受けた。寒色である水色を主として使っていることや、色面どうしの境界がくっきりと分かれていることがその要因であるようだ。

メインの面が白一色かと思えば、よく見ると黄みがかかっていて暖かいイメージが伝わってくる。どっちつかずのような感じだ。

そして、その白い面は人の形を成しているように見える。そうすると下部にある赤い面は人の内臓を表しているのだろうか？ 肌のような部分は血の気がなく不健康そうなのに、体内にあるように見える部分は真っ赤で生命力があるような感じがある。その対比が個人的に好みだと思う。

この絵の中で私が一番目をひかれたのは黒い線で描かれている部分で先程私が、白い面が人の形に見えるのはこの部分が目のように見えたからである。左側の赤みがかかった黄色い煙のようなものは、この人の感情的で精神による、ためいきや魂なのではないかと感じた。

はじめに書いたように、この絵からは、どっちつかずでふらふらしたような不安定さを感じた。背景は様々な彩度や明度が混ざり合ったものであるのに対し、描写されている物体は一色だけでハッキリと色かのせられている。人の形をしていて血の気がない色相と生命力を感じず体内の色相。物体と精神。面と線。それぞれが対比して描かれていて二面性がある。

作者の思うままに色かのせられているようだ。冷たいような印象と、やわらかく暖かい印象が混ざっていて不思議と、吸いこまれそうな感じがあり、キャンバス上のバランスが良くとても見やすい。美術に詳しくない人が観賞しても深みがある作品ではないだろうか。

## ■ 美術感想文

提出日： 月 日

☒

A ⑤ C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

女性が語ること

この絵を見た瞬間とても寂しく虚しい気持ちになった。

第一に、広い大地にたった一人の女性がポツンと佇んでいて、女性がそこから動けないでいるというふうに見える。そして全体的にくすんだような色調であるのも相まってとても不安な印象を受ける。女性はどのように、家が数軒しか見当たらないほど広い草原にぽつ一人でいるのだろうか。周りに人がいないところを見るとこの女の人は置いてけぼりにされているふうに見える。

そして女の人の背中側から女の人と同じ景色を風ていると、言いようのないほど不安な気持ちにさせられる。この絵の草が一本一本細かく描写されていることがその要因のひとつであると思う。リアリティがありすぎて、不安になっている、という表現が正しいだろう。

しかし反対に、空の色や、右上の車のタイヤ跡が、明るさや人がいる形跡が出しているあたりがみがあり、ただ不安なだけではない気がした。

それに強風ではなく、その風が女性に向かって吹いていて髪の毛をそよがせているのが自然を感じさせて絵画に生き生きとした印象を与えているように思えた。

私はあまり面白さや内包された意味内容を見出すことができなかった。

しかし描写が細かいので、好きな人は好きだし、味わい深い作品であるように感じた。

図



- 1点提出  
 2点提出

学生番号

氏名

4253

塚本 颯

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

憧小景

私が絵と一目見た時に受けたのは「やわらかい光」という印象でした。黄色が混じりつつある白が青を背景にしてとてもよく映える、その色の目立ちや、やわらかなタッチが私に光というイメージをもたせた。青色と白色というのはとても相性が良い。やわらかなタッチだと特によく連想するのは青空だ。しかし、この絵と空はあまり結びつかなかった。

光の印象を与えた目のモチーフは人に似ている。なんとなく青目のパーツに見えるものがある。しかし、目から伸びる黒く細い線はあまり人間というイメージには似合わない。それはまつ毛のようであるが、5本に絞られていて、そこから糸は手首の「はな」かと思った。黄色で描かれた何かに向かって必死に手をのばしているようにも見える。だが他のタッチとは違い、はっきりと無彩色で描かれたそれは私にとっても不安を与えた。画面の中でないまじり、それだけその存在にばかり目がつかれる。

そして黒の線が伸びる先にある黄色いモチーフ、これはとてもつかわれていると思った。やわらかいタッチで描かれているにも関わらず、かぶりつきと存在感が強く、感じられ、とても魅力的だ。黄色と言いつつ、体感としては金色に近い。うっすらとグラデーションがあって赤みがかった箇所などから冷めた印象も感じ、またもう一度見るとほんわかとしたあたためる不思議さがある。

そして上を見るとある茶色のような部分が少しだけ見える。黄色の下地だ「うっか」といはいめは思った。この部分は考えてもわからず、しかしまた心に違和感があった。一度絵を見渡したあと気がついた。目だと思っていた部分の色が塗られてから下地の色が見えているのだ。白ははみ出しのようのみ塗られているのみで「充血」しているようにも見えるし、透けているだけにすべてを見透かしているようにも思える。もしかして目が見えていない、青目のようなものだと考えた。

盲目的に手をのばす絵画、最初の印象からかみくだいていくとこう見えるようになった。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4254 氏名 佐藤 未来

タイトル

作品の題名が読めた人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

めばえ

まず、最初にはっと目にした時、白い部分はおそらく人なのだろうと  
 思いました。横を向いている様な顔のシルエットで片目だけがこちら側  
 から見えている状態なのだと思います。そして目の様な部分から伸  
 びている何かは植物のように思いました。この作品のタイトルが  
 分からなかったので、瞳から何か植物の様なものが伸びている  
 ので「めばえ」というタイトルが思い浮かびました。その伸びた先  
 には何か黄色の何かがあります。これは伸びた先にある様にも  
 見えますが、よくよく見てみると上の方にほんの少し色の違っている部分  
 があり、その部分から溢れでてきている様にも見えてきます。  
 後者の見方で見ると、花がつぼみから開花する時の様子にも  
 見えなくもないのではないかと思います。それから右下の赤い部分ですが、  
 私は初め、顔と同様に体部分も横を向いているのかと思いましたが、  
 右下の赤い部分が臓器の様に見えなくもないのではないかと見て  
 いるうちに思い始めました。同時にこの絵が全体的に青が強く  
 使われているのにも関わらず最初に見た時からあまり冷めた印象  
 を受けなかったのは、花の様に見える部分や、臓器の様に見える  
 部分など“生きている”部分にとっても鮮やかな色が使われて  
 いるからなのではないかと思いました。色調もやわらかく冷めた  
 藍色に囲まれているからこそ、より生き生きとした色が力強く  
 映える絵であると思います。

## ■ 美術感想文

提出日：7月7日

図

A (B) C D

 1点提出 2点提出

学生番号 4254 氏名 佐藤 未来

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

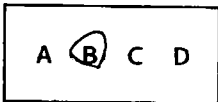
追い風

この作品を見てまず「最初に思い浮かんだのは、草原に吹く風と、それにたぐく草、遠くまで流れてゆく草の香りです。この作品は自然と画面中央に居る女性の見つめるその先、そこに視線が遊導されてゆく様な感じがします。地平線のその先に何かあるのだろうかと思わせてくれます。また、この作品の場阿けについてですが、おそらく日本ではなくどこか海外の国の舎田なのではないかと思えます。しかし、画面の女性は黒髪で細身の女性でアジア系の女性の様に見えます。そこで私は小と、昔に見たある映画を思い出しました。戦時中、アフリカへ渡りそこで広い畑を耕やし暮らす日本人たちの話です。しかしアメリカからはひどい空打ちを受けるとのこと。そんな映画のワンシーンが連想されました。どこか古びた様な、なつかしい様なものを感じさせてくれる色合いもあってか自然とあの様な時代のイメージが浮かんできました。風にたぐく女性の髪は少しまとまり、さらさらと毛が激しく風にたぐく、仕事に疲れている様な環境の違いに疲れている様な疲労感を感じました。また、片方の手を少し前に出し前方を見つめる様子は、何かを待っているというよりも、何かを追っている様に思いました。この作品はタイトルが分からなかったのでもういった部分から「追い風」というタイトルが考えつきました。全体的にどこか寂しさを感じる絵だな、と、思いました。

■ 美術感想文

提出日： 7月 7日

図



1点提出

2点提出

学生番号 4255 氏名 小館 采芽

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

かゆき

D

貧乏を感じさせられた。ただ一人いる女性は髪がぼさぼさで、着ているものも地味だし、手足も細くて弱々しく思えた。女性の周りには芝生があるだけだし、その色もくすんでいて、女性が手を延ばして遠くの家の方の芝生だけ光が当たって見えた。上半身だけとかういて持ちあげているように見えたので、下半身は動かさないか疲れて動かさないのだらうと思った。殺風景に芝生が広がってその周辺だけに光が当たっている家が女性にとっての唯一の希望なのだらうと思った。けれど、足を動かさないさせた女性がたどりつくにはあまりに遠い。しかし、女性の手は強く地をゆすぶがみにしてこのころから、彼女は現在孤独で貧しい環境にいて、唯一希望がある家(居場所?)も遠く離れて、強く求めも届かないのだと解釈した。空には雲がなく、芝生もかゆい感じで水気が感じられない。作者は彼女のような貧しい孤独な環境下で、滑った気持ちで自分の居場所と求めたのかもわからない。

■ 美術感想文

提出日: 7月7日



- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4255 氏名 小館 采芽

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

たばこ男 D

ゴキカルが愉快な絵だと感じる。曲線、赤と黄色がリズムカルだ。バグのうす青と横向きの男性のような曲線内の白はむらと残して塗られていふのに対し、草もフウからのびる火と男性の胸の内臓は強く目にとびこんでくる。火のついた草だからたばこか麻薬だろうと思うが、火のついてないほうの草もその先は男性の頭の中、細胞の核の中からはじま、いふの白玉かもしれない。しかし、目からはたばこは吸えないだろう。だから細胞だろうと思う。しかしその中は塗られていない、バグと同じ青だ。核はあるが、からいふの細胞である。無意識のままに、頭のほしがままたばこを吸っているようだ。私の母親みたいだ。私から見るとただ、ばかだとしか思えない。この男性もばかみたいなたばこを吸っているのだろうか。あるいは薬物なのだろうか。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月 7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4256

千登 遙香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

たばこを吸うおじさん

すこし抽象的な絵だが、木下彦貞の人物像だ。白色で人物の本体が描かれている。かなり体の形がデフォルメされていて、歪んだ形をしている。男なのか、女なのか、年齢はいくつなのか、人種は何人なのか、断言できることはひとつもない。

だが、私はこの人はおじさんだと思う。このおじさんは、たばこを吸っていて、黄色の煙を吐いている。大きく見開かれた目は、その煙で潤んでいるようだ。体の中に描かれている赤い部分は、おじさんの肺で、赤くなってたばこの害に侵されていることを伝えている。体の中を透かして描くことで、肺の悲痛な叫びが伝わってくるように描かれている。

ふあふあとしたタッチで描かれていて、不思議な印象を受ける。どこかコミカルな印象も受けるが、冷たい、寂しい印象も受ける。この青い背景からは、おじさんのたばこを吸うことを止められないが、体はもう悲鳴を上げているという小凶ましい現状を表わしているようだ。歪んだ体や顔の形も、おじさんの苦悩の表現のようにも感じる。

作者は、ふあふあとして一見オシャレな絵から、たばこを喫煙者に対するアイロニーを表しているのだろう。見ている美しいタッチの絵であるが、誰なのか、何人なのかも分からないこのおじさんから、学ぶべきことを感じ取れる絵だと思ふ。



## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4256

千釜 遥香

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

草原の女

D

とてもきれいな絵だ。草原の草の一本一本まで細密に描き込まれていて、非常に丁寧な仕事がかがえる。女性の描写もリアルで、見ているととても小惚気小惚気する。全体的に緑色がかかった色彩で表現されていて、しっとりした雰囲気も心地がいい。

この風が吹く草原で、ふさをつきむこうにある家屋のほうを仰ぎ見ている女性。なぜ彼女はこんな状況に置かれているのだろうか。彼女の腕に注目してみると、異常に糸田い。痩せているのだ。服装こそはそこまで汚れていたりはないが、きっと彼女は貧しいのだろうか。あの家屋は貧しい彼女が昔住んでいた家だが、あまりの貧しさによって家を売らなければならなくなり、手放した家に昔の記憶を思い出しているのだろうか。この彼女の頼りない後ろ姿からは、一種の執念のようなものを感じる。風も穏やかで心地良い風というよりは、静かに冷たい風のように感じる。なんたがか底知れない恐るしさも感じ取れる絵である。

図

(A) B C D

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4257

海老沢 美鈴

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

タイトル

仮面

最初にこの絵を見て抱いた感想は、何を表現しているのか  
 良く分からないけれど、とにかく白く画面に描かれているものは  
 人間の横顔である、ということだ。目と鼻と細く長い首がある。  
 黒く長く伸びているのはひげだと思った。画面下の、赤いものは、  
 内臓だろうか。目はマンガのデフォルメされたイラストのように丸と点だけで  
 表現されている。どこを見ているだろうか。こちらを見ているようにも見えずし、  
 左を見ているようにも見えず。どちらにしても、機械嫌の良さそうでは  
 目つきではない。背景は青紫色の上に白くモヤがかかっている。  
 ように見える。この点からも、この絵は楽しい絵ではない印象を  
 受ける。どんよりしたムードだ。輪郭線が目の丸にしか使われて  
 いないことに気づいた。線が目立たず、不安定な感じが画面全体  
 にある。また、顔の横にある黄色い物体は、敵の輪郭にそっ  
 ちように見える。このことから顔をおおう膜か仮面か何かかと  
 考えた。黄色の先に見える赤いものは何なのだろうか。血に見える気がする。  
 ずうとい目つきで、仮面の下から何かをジッと見ている人物、という  
 印象を受ける。赤い内臓、心臓に、何か人知れず、どんよりした  
 気持ちを抱えているのだろうか。

私はこの絵を好きかどうかと問われたならば、あまり好きではないと  
 答えるだろう。このような抽象的な絵画は、沢山の公式を  
 使わないと答えにたどりつけない数式のようなもどかしさを  
 感じしてしまうからだ。しかし、こうして感想を文字にして見ると  
 そのもどかしさから楽しみを見いだせそうなの気がしてきましたので、  
 苦手意識は良くないと考えをまっかきとめた。

図

A (B) C D

1点提出

2点提出

学生番号

氏名

4257

海老沢美鈴

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

泣く女性

この絵を見て、最初に、この人物は何をしてい子のたろうと考えた。

体のませ髪。長さから女性だと思ふ。

ただ座っているだけには見えぬ。腕を動かして、何かを訴えている様子だ。向いてい子方向から察するに、遠くに見える家へ向かって訴えているようだ。叫んでいるかもしれない。

後ろ姿であるので、表情が分からないが、苦しい表情をしてい子と思ふ。

髪が風にびびいて乱れているが、周りの草は風に揺れている。

ような様子がないので、不自然な印象を受けた。

景色から人物が浮いているように見える。

女性の服装は無地の白色で、さびしい感じがある。

私は、もし見たら、彼女は、遠くに見える家から追いつかれた身なのかもしれないと想像した。

かつては、そこで恋人と暮らしていたが相手が別の女性と連れ去ったことで、家と近かれ嘆き悲しんでいる様子に見える。

女性のポーズは、浜辺にいて自由に動かせられない人魚のように、下半身をひかっている。

下半身が不自由なのかもしれないと思った。

また、画面全体が薄暗く、ほとんどの面積を草原が占めている。これが、半分以上が空で、それも青空であつたらもっと明るい印象の絵に見えるかもしれない。

自分が絵の中に入れたら、この女性に手を借りたいと思った。

■ 美術感想文

提出日： 月 日

図 A (B) C D

- 1点提出
- 2点提出

学生番号 4258 氏名 千場 りん

タイトルの欄  
 作品の題名が解った人は、それを記述する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記述する。  
 求める。

私はこの絵の作者を知りません。絵も初めて見ました。  
 私のこの絵の第一印象は、悲しそう、さみしそうだな。この絵好きだなあ(直感的に)という事でした。

写真的でリアルな描写なのにどこか非現実的な印象を持ちました。  
 私はこの絵に描かれている女性の拡大な草原の中で一人、鑑賞者に対し背を向け家の方を見ている姿を見てこの女性はとて家へ又は家にまつわりの何か(家族・食べ物など)に食いついているかのように求めているように思えました。女性自身にはもう力はなくボロボロだけれども強く家の方を求めているように思いました。  
 とも女性と家にはとて大きな距離感があり、そこが少し非現実的にも思えました。

全体的に色が緑がかっていて晴れやかさがなく曇り空の風の強い日ど、不安やさみしさが全体から伝わってきました。

この作者がどのような気持ちで何を表現したいかというのと私がこの絵を見て感じたことは全く違うかもしれませんが...

この絵を見て鑑賞者(私の場合)はとて女性に感情移入がしやすくどこかこの女性と自分を重ねるように見てしまいます。  
 作者もこの女性にどこか自分を重ねて描いているのかなと思いました。

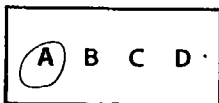
女性のはいつくばり手をはたしている姿は腕などを見ると細く非力な感じを受けますがそれでも求めているという力強さを感じました。

好きだと思ったのは以上のことが(表現されていると思い)今の自分にとてとも共感できる内容だったからだと思いました。

## ■ 美術感想文

提出日： 月 日

図

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4258

千場りん

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

白い人間

正直何だかよくわからない絵だと思った。人物を描いているようにも見えるが何か違ったもののようにも思える。私はこの作者も題名もわからないし初めてこの絵を見た。

青っぽい背景は何だかどこか切なさもあるのかな?とも思ったがどこか温かい印象を受ける。その温かさがこの絵に対して入り込みやすいとだとも私は感じた。どこの色も温かい。この絵はとても平面的で奥行きがないように思える。

そのせいか絵に入り込むというより、~~イメージを~~受けられているような気がしてしまう。

白いのは人間の横顔のようにも思える。白のと黄色の間の背景の青の部分も何だか人間の横顔のように見える。だがその姿は人間の精神面を表現して

いると思う。この白い部分もただの白ではなく色々な色が入って温かさを感じるので

人間に見えた理由は丸い田の中に点が大きく描かれているのが

目のように見えたからだ。目が何か涙のような茸・羽?のようなものが出ているように思える。色もは、さりしていて注目してしまう。

白い人間の中に2つの赤が描かれている。その赤はとてもあざやかで私は人間の、心や気持ち表現しているのかなと思った。

白い部分は何かあほろけで温かい感じがしたが、この赤い部分は力強さや熱さを感じる。

オレンジの部分は何か...白い人間から出た感情だろうか。白い人間をうつろいほめだろうか。少し色が赤くなっていくのも気になる。

この絵は何か感情を表現しているように思えた。色々な横溝が私の中に飛び回る。

## ■ 美術感想文

提出日： 7月7日

図

(A) B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4259

高橋 乃亜

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を要する。

三口

青の色味と、線の表現がとても印象的な作品だと  
 思いました。この作品の中で、きちんと線として描かれて  
 いるのは黒を使って描かれている一部だけなのに、とても  
 線の強さを感じました。大部分を占める青はとても不安  
 定な感じがあるのに、他の色との境目にはその不安定さ  
 は感じられず、むしろ強さが主張されているように感じられ  
 ました。

青の色味がとても不安定に見えるように見えます。明るいようで、  
 でも暗いようで、綺麗なもののように見えて、(もっぱら)たまに  
 間々すこしく汚く見えたり、そんな色だと思いました。黄、赤、  
 黒といったこの作品で他に使われている色は、比較的塗り残  
 しの出ないよう塗られているのですが、青ほどちらかというま  
 だらに、あまり良くない表現をすると、乱雑に塗られているよう  
 に見えます。そのせいか、他の色よりも平面的に見えるこの作  
 品が、青によって立体的にも見えるようになって、感じるよ  
 うに感じました。

## ■ 美術感想文

提出日: 7月7日

図

A B C D

 1点提出 2点提出

学生番号

氏名

4259

高橋 乃亜

タイトル

作品の題名が解った人は、それを記載する。 わからない人は「自分で考えたタイトル」を記載する。

アトリエ - アイス 「クリスティーナの世界」

よ、水中を描く際に、その水中全体に水色がかかるよう描く。というところがよくありますが、この作品全体の緑がかった色は、それと同じような効果を感じさせる緑だと思いました。そしてこの緑からはあまり綺麗な印象は感じられませんでした。ただ「それは汚い」というわけではなく、ただ「綺麗ではない」として新しくも美しく「けれど」とても美しい緑だと感じました。

全体の色から感じる印象と描かれている内容から感じる印象が、とても方向性が違うように思いました。手前の女性の後ろ姿からは、何かに追いつかざるような必死さ、切なさのようなものを感じます。彼女には足もあり、服装も汚ないはなく、何も不自由でないように見えるのに、もうそこからは少しも重くないというように見えます。それは、彼女の表情がこちらからは少しもうかがえないことにもあると思います。遠くを見つめているように、彼女の視線の先と思われるのは、奥の家にあるようにも見えますので、私は家を見ていることはあまり重要ではないように思います。具体的なものというより、彼女自身の中で「とても重要な何かに向かっているように感じました。